ONKYO®

AVセンター

# TX-SA501

# 取扱説明書



お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、
正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切
に保管してください。

# 目次

## はじめに



## ホームシアターとは



## 接続をする



## 初期設定をする（使用環境にあった設定をします）



こんなこともできます

## 設定をする（応用編）



## 音楽・映画を鑑賞する（基本編）



こんなこともできます

## 音楽・映画を鑑賞する（応用編）



## その他

# 主な特長

■5.1チャンネルアンプにサラウンドバックスピーカーを追加した6.1チャンネル出力

■DTS*デコーダー、ドルビー**デジタルデコーダーおよびMPEG-2 AACデコーダー搭載

■5.1マルチチャンネル入力端子装備、DVD-Audioプレーヤーへの拡張性を実現

■4系統のS-Video入力端子装備

■デジタル入力端子として光2系統、同軸1系統装備

■デジタル出力端子として光1系統装備

■16のサラウンドモード（Dolby Pro Logic II Music/Movie、Dolby Digital、Dolby Digital EX、DTS、DTS-ES Discreate/Matrix6.1、DTS Neo : 6 Music/Cinema、AAC、AAC Dolby EX、Orchestra、Unplugged、Studio-Mix、TV Logic、ALL Ch Stereo）

■再生周波数の広帯域化を図るWRAT（ワイド・レンジ・アンプリファイアー・テクノロジー）

■96kHz/24bit D/Aコンバーター搭載



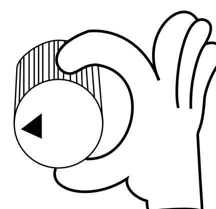
AAC パテントマーキング

Pat.5,848,391 5,291,557 5,451,954 5 400 433 5,222,189 5,357,594 5 752 225
5,394,473 5,583,962 5,274,740 5,633,981 5 297 236 4,914,701 5,235,671
07/640,550 5,579,430 08/678,666 98/03037 97/02875 97/02874 98/03036
5,227,788 5,285,498 5,481,614 5,592,584 5,781,888 08/039,478 08/211,547
5,703,999 08/557,046 08/894,844 5,299,238 5,299,239 5,299,240 5,197,087
5,490,170 5,264,846 5,268,685 5,375,189 5,581,654 5,548,574 5,717,821

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後のアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

### 音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



# オーディオ機器の正しい使いかた

## オーディオ機器を安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

### 絵表示について

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

### 絵表示の例



△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



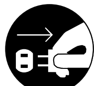


●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。
図の中や近傍に具体的な指示内容（左上図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

## ⚠警告

### ■ 故障したままの使用はしない





電源プラグをコンセントから抜いてください

- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本機の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
  煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理を依頼してください。

### ■ 絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない



分解禁止

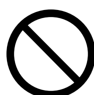
- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでくだい。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。
- 本機を分解、改造しないでください。火災・感電の原因となります。

### ■ 100V以外の電圧で使用しない



- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧や船舶などの直流（DC）電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

## ■ 放熱を妨げない



● 本機の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次の点に気をつけてご使用ください。

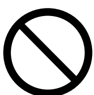
- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、専用ラック以外の押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から20cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から20cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

## ■ 水のかかるところに置かない



水場での使用禁止

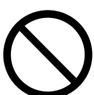
● 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。



水ぬれ禁止

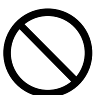
● 本機は屋内専用に設計されています。ぬらさないようにご注意ください。内部に水が入ると、火災・感電の原因となります。

## ■ 水の入った容器を置かない



● 本機の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。中に入った場合、火災・感電の原因となります。

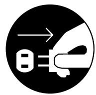
## ■ 中に物を入れない



● 本機の通風孔などから金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

## ■ 中に水や異物が入ったら





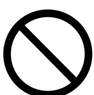
電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに本機の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。

## ■ 電源コードを傷つけたり、加工しない



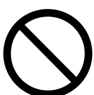
● 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



● 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

● 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

## ■ 電源コンセントにはオーディオ機器以外接続しない

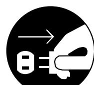


● 本機の電源コンセントはオーディオ機器専用です。表示された定格以内でご使用ください。表示された定格以上の機器やヘヤードライヤー、電気こたつなどの電熱器具、オーブン・レンジなどの調理器具は絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

# オーディオ機器の正しい使いかた

## ⚠警告

### ■ 落としたり、破損した状態で使用しない

電源プラグをコンセントから抜いてください

● 万一、誤って本機を落とした場合や、キャビネットを破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店にご相談ください。

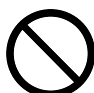
### ■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない



接触禁止

● 雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

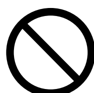
### ■ 乾電池を充電しない



● 乾電池は充電しないでください。電池の破裂や液もれにより、火災、けがの原因となります。

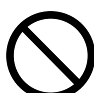
## ⚠注意

### ■ 設置上の注意



● 強度の足りない台やぐらついたり、傾いたりした所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
● 本機の上に他のオーディオ機器を載せたまま移動しないでください。倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。
● 本機の上に10kg以上の重い物や外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。

### ■ 次のような場所に置かない



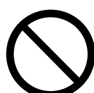
● 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
● 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

### ■ 接続について



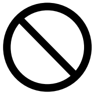
● 本機を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源スイッチを切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となることがあります。

### ■ 使用上の注意

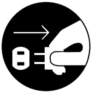


● 電源を入れたときは音量(ボリューム)に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。
● 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。
● ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
● 本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様にはご注意ください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。
● キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

## ■ 電源コード、電源プラグの注意



- 電源コードを熱器具に近付けないでください。コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。
- 電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。



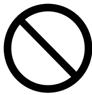
電源プラグをコンセントから抜いてください

- 旅行などで長期間、本機をご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

## ■ 電池について

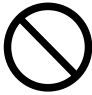


- 電池をリモコンに挿入する場合、極性表示（プラス＋とマイナス－の向き）に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



- 指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂、液もれにより火災、けがや周囲の汚損の原因となることがあります。
- 電池は、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れないでください。電池の破裂、液もれにより、火災、けがの原因となることがあります。

## ■ スピーカーコードについて



- スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因となることがあります。

## ■ 点検・工事について

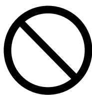


電源プラグをコンセントから抜いてください

- お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。



- 使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。もよりの販売店にご相談ください。
  本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用等についても販売店にご相談ください。
- 電源プラグにほこりがたまると自然発火（トラッキング現象）を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。



- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。

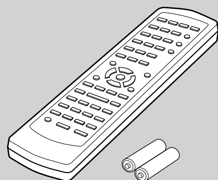


- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。
  化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。

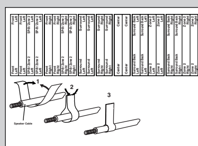
# 付属品を確認する

## 付属品

ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（ ）内の数字は数量を表しています。



リモコン（RC-479S）…（1）
乾電池（単三型）…（2）

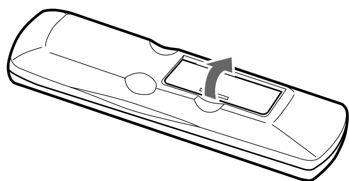


スピーカーコード用ラベル…（1）

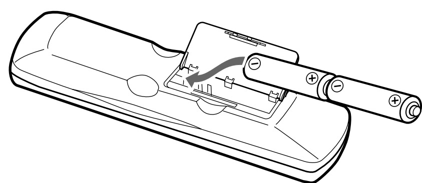
取扱説明書…（本書1）
保証書…（1）
オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内…（1）

## *リモコンを準備する*

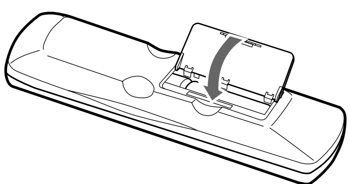
1. カバーを矢印の方向に押し上げてはずす



2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池2個を＋（プラス）と－（マイナス）を間違えないように入れる



3. カバーを戻す

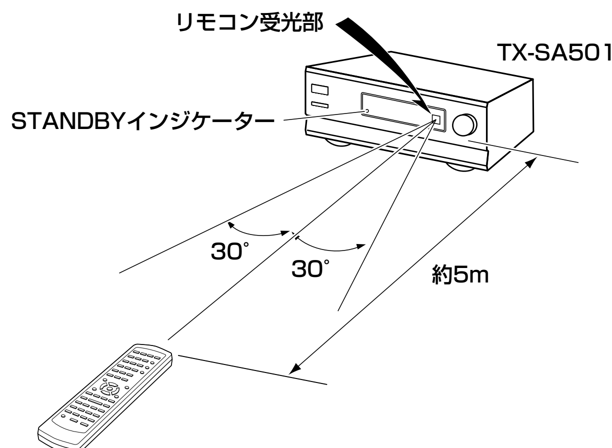


ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 寿命がなくなった電池を入れたままにしておくと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して2本とも新しい電池と交換してください。
- 使用頻度にもよりますが、付属の電池の寿命は約6ヵ月です。電池を交換するときは、単3型をご使用ください。

## *リモコンを使う*

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。リモコンからの信号を受信すると、本機のSTANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯します。



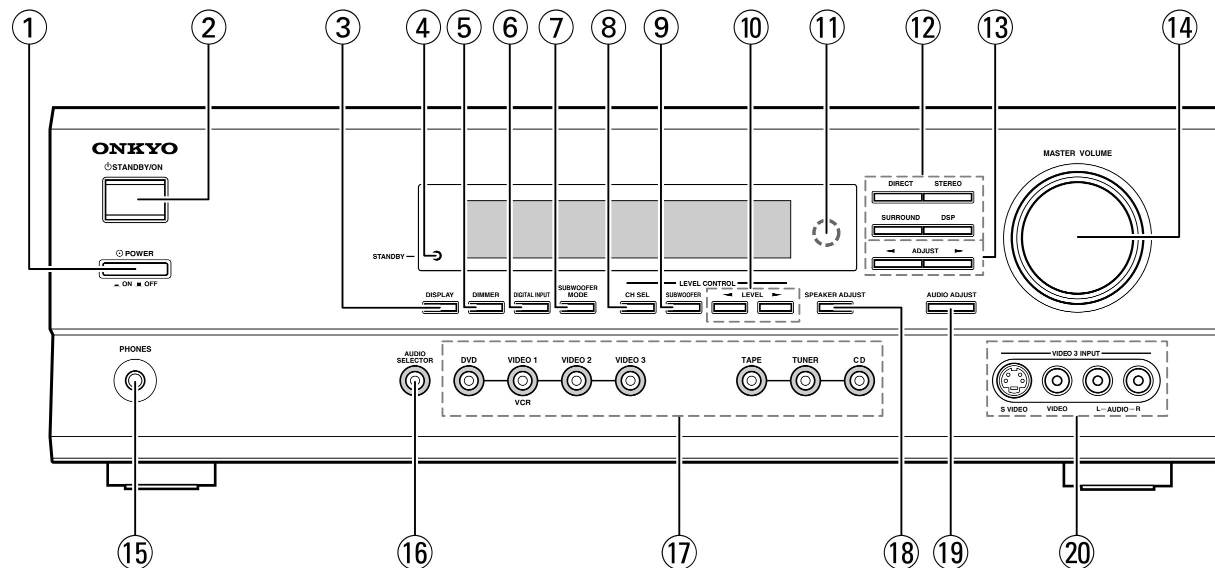

ご注意

- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。

# 本体、リモコンボタンの名前と働き

## 前面パネル

詳しい説明は〔　　〕内のページをご覧ください。




①POWERスイッチ〔30〕
本機の主電源を入/切します。主電源が入るとSTANDBYインジケーターが点灯します。

②STANDBY/ONボタン〔30〕
主電源が入っているときに電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

③DISPLAYボタン〔42〕
表示部の情報を切り換えます。

④STANDBYインジケーター〔30〕
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

⑤DIMMERボタン〔34〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑥DIGITAL INPUTボタン〔32〕
接続した機器に合わせてデジタル端子の設定をします。

⑦SUBWOOFER MODEボタン〔31〕
サブウーファーモードを選択します。

⑧CH SELボタン〔37, 43, 46〕
距離またはレベルを設定するスピーカーを選びます。

⑨SUBWOOFER ボタン〔37, 43, 46〕
サブウーファーのレベルを調整します。

⑩LEVEL◀/▶ボタン〔37, 43〕
距離またはレベルを調整します。

⑪リモコン受光部〔8〕
リモコンからの信号を受信します。

⑫LISTENING MODEボタン〔36, 40, 41〕
リスニングモードを選びます。

⑬ADJUST ◀/▶ボタン〔31, 35, 36, 45～48〕
設定する数値を選択します。

⑭MASTER VOLUMEつまみ〔33, 36〕
音量を調整します。
音量は基本的にMin・1・2･･･78・79・Maxの範囲で調整できます。

⑮PHONES端子〔34〕
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑯AUDIO SELECTORボタン〔35, 36〕
オーディオ入力信号の種類を選びます。

⑰入力切換ボタン（DVD、VIDEO1～3、TAPE、TUNER、CD）〔32, 33, 35, 36, 40, 44〕
再生するソースを選びます。

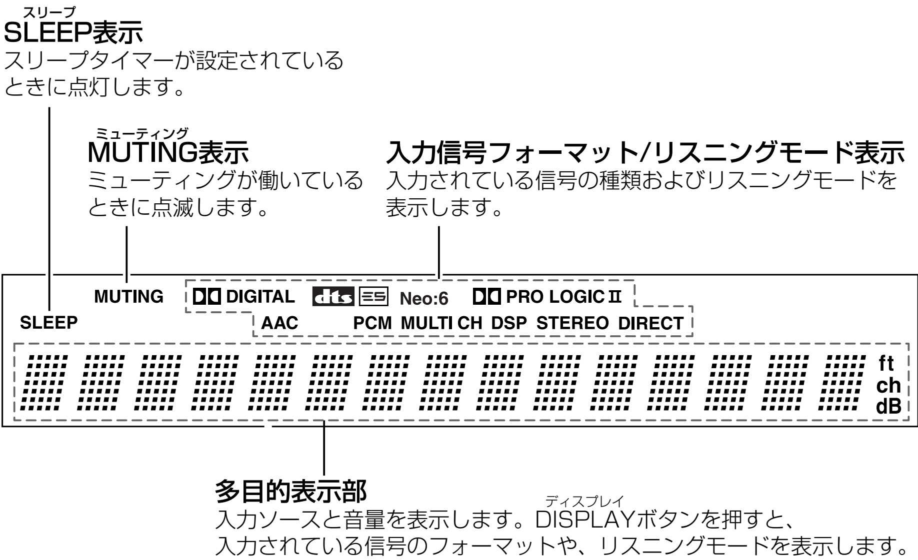
⑱SPEAKER ADJUSTボタン〔31, 45, 46〕
スピーカーの設定をします。

⑲AUDIO ADJUSTボタン〔36, 47, 48〕
音質の調整やリスニングモードの条件設定を行います。

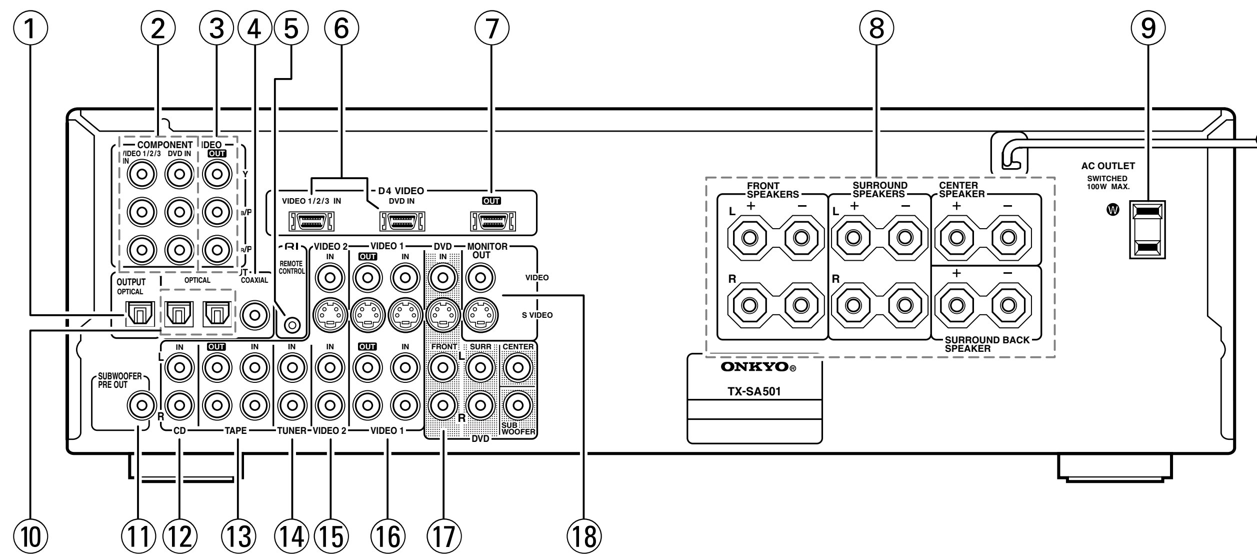
⑳VIDEO　3 INPUT端子〔24, 44〕
ビデオカメラやゲーム機などを接続します。

# 本体、リモコンボタンの名前と働き

## 表示部



## 後面パネル




①DIGITAL OUTPUT端子（OPTICAL）
デジタル音声の出力端子。光デジタルケーブルを使って録音機器を接続します。

②COMPONENT DVD IN、VIDEO1/2/3 IN端子
接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子。コンポーネントビデオコードを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

③COMPONENT VIDEO OUT端子
本機からコンポーネント映像を出力する端子。コンポーネントビデオコードを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

④DIGITAL INPUT端子（COAXIAL）
デジタル音声の入力端子。同軸ケーブルを使ってデジタル再生機器を接続します。

⑤RI REMOTE CONTROL端子
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子。RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑥D4 VIDEO DVD IN、VIDEO1/2/3 IN端子
接続した機器からD映像を入力する端子。D映像ケーブルを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

⑦D4 VIDEO OUT端子
本機からD映像を出力する端子。D映像ケーブルを使って接続します。S映像より良い画質が得られます。

⑧スピーカー端子
スピーカーを接続します。

⑨AC OUTLET（電源コンセント）
本機に接続する機器の電源プラグを接続することができます。

⑩DIGITAL INPUT 1、2端子（OPTICAL）
デジタル音声の入力端子。光デジタルケーブルを使ってデジタル再生機器を接続します。

⑪SUBWOOFER PRE OUT端子
アンプ内蔵のサブウーファーを接続します。

⑫CD IN端子
オーディオ用ピンコードを使ってCDプレーヤーを接続します。

⑬TAPE IN/OUT端子
オーディオ用ピンコードを使ってテープデッキやMDレコーダーなどの録音機器を接続します。

⑭TUNER IN端子
オーディオ用ピンコードを使ってチューナーを接続します。

⑮VIDEO 2 IN端子
オーディオ用ピンコードなどを使ってビデオデッキや、BS/CSチューナーなどを接続します。

⑯VIDEO 1 IN/OUT端子
オーディオ用ピンコードなどを使ってビデオデッキなどを接続します。

⑰DVD端子
DVDプレーヤーを接続します。

⑱MONITOR OUT端子
接続した映像機器の映像を、本機を通してTVなどのモニターに映します。

# 本体、リモコンボタンの名前と働き

## リモコン（RC-479S）

### RCVRモード（本機を操作するとき）

詳しい説明は〔　　〕内のページをご覧ください。

**本機を操作する前に、RCVR/TAPEボタンを押してください。青いボタンは、どのリモコンモードでも使用できます。**

**STANDBY/ONボタン〔30〕**
主電源が入っているときに、電源のスタンバイ/オンを切り換えます。

**リスニングモード切換ボタン〔36, 40, 41〕**
リスニングモードを選びます。

**CINE FLTRボタン〔43〕**
シネマ・フィルター機能のオン/オフを切り換えます。

**LATE NIGHTボタン〔43〕**
レイトナイト機能をオン/オフします。

**CH SELボタン〔37, 43, 46〕**
距離または音量レベルを調整したいスピーカーを選択します。

**TESTボタン〔46〕**
スピーカーの音量レベルを設定するときに使用します。

**AUDIO SELボタン〔35, 36〕**
オーディオ入力信号の種類を選びます。

**MUTINGボタン〔34〕**
音を一時的に小さくします。

**SLEEPボタン〔34〕**
スリープタイマーを設定します。

**DIMMERボタン〔34〕**
表示部の明るさを切り換えます。

**MODE切換ボタン（DVD、CD、RCVR/TAPE）**
リモコンで操作する機器を選びます。本機を操作するときは、RCVR/TAPEボタンを押します。

**AUDIO ADJUSTボタン〔36, 47, 48〕**
音質の調整やリスニングモードの条件設定を行います。

**ADJUST◄、►ボタン〔35, 36, 47, 48〕**
設定する数値を選択します。

**LEVEL▲、▼ボタン〔37, 43〕**
CH SELボタンで選択したスピーカーのレベルを調整します。

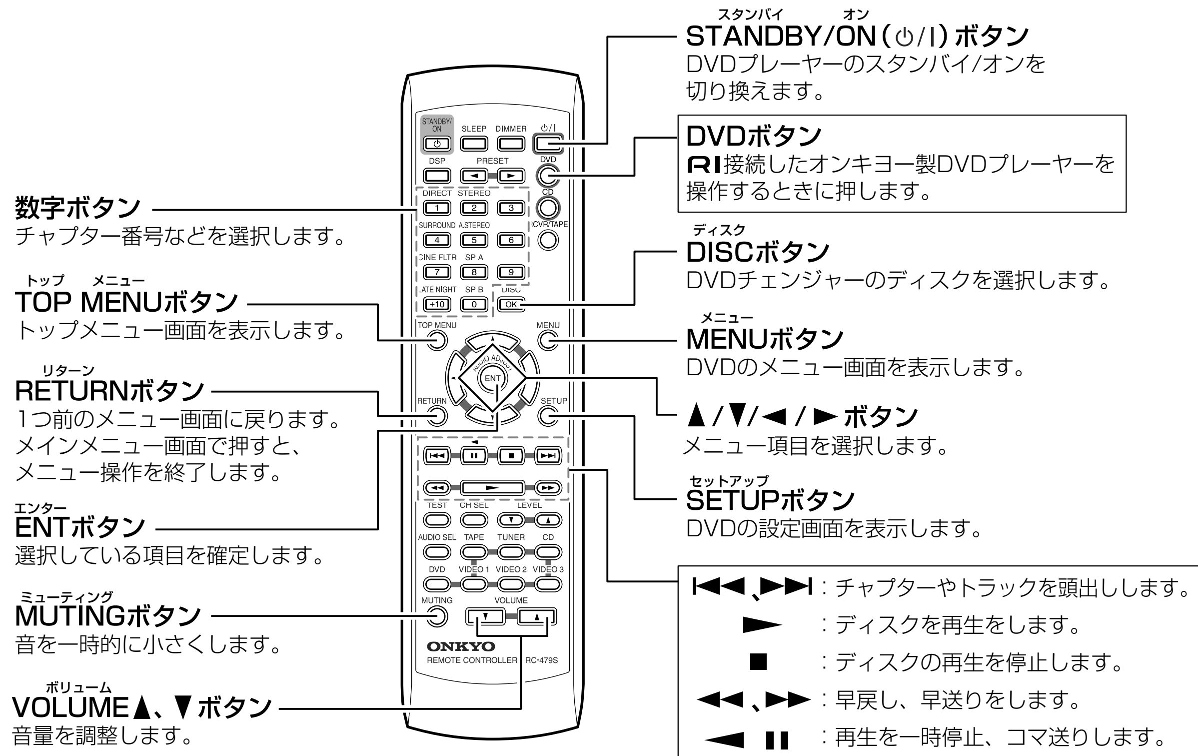
**入力切換ボタン〔32, 33, 35, 36, 40, 44〕（TAPE、TUNER、CD、DVD、VIDEO1、VIDEO2、VIDEO3）**
再生するソースを選びます。

**VOLUME▲、▼ボタン〔33, 36, 46〕**
音量を調整します。
音量は基本的にMin・1・2…78・79・Maxの範囲で調整できます。

本機に付属のリモコンでRI接続をしたオンキヨー製品を操作することができます。（MDレコーダーは操作できません）
MODE切換ボタンで操作する機器を選んでから操作ボタンを押します。RIケーブルとオーディオ用ピンコードを正しく接続してください。本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

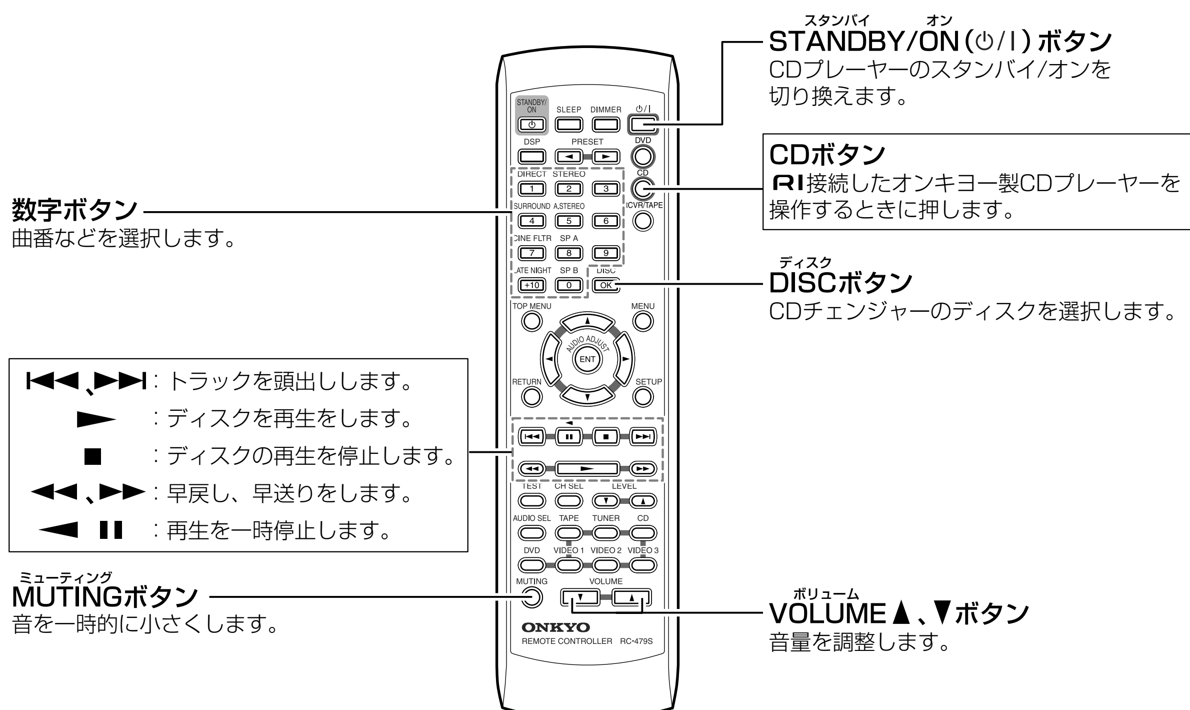
## DVDモード（本機にRI接続したDVDプレーヤーを操作するとき）

DVDプレーヤーを操作する前に、DVDボタンを押してください。青いボタンは、どのリモコンモードでも使用できます。



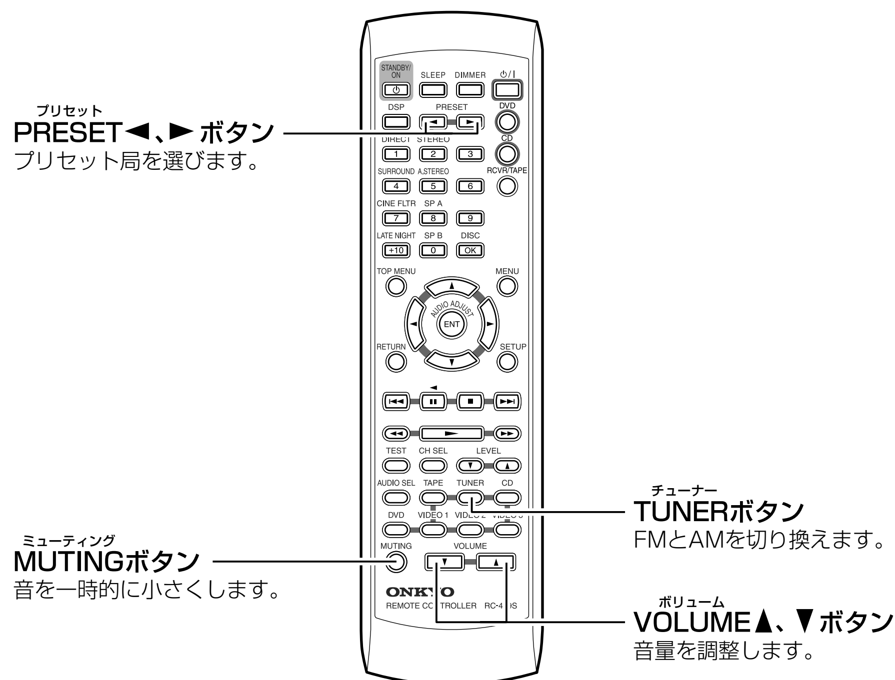

## CDモード（本機にRI接続したCDプレーヤーを操作するとき）

CDプレーヤーを操作する前に、CDボタンを押してください。青いボタンは、どのリモコンモードでも使用できます。



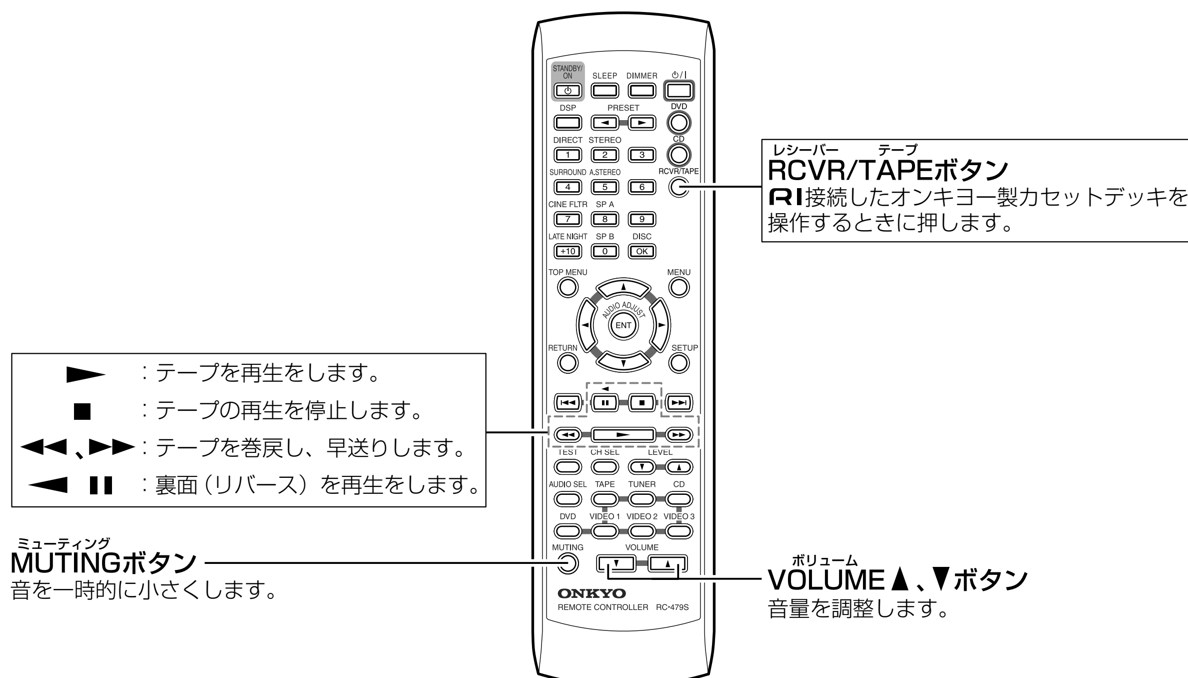
# 本体、リモコンボタンの名前と働き

## チューナー<br>TUNERモード（本機にRI接続したチューナーを操作するとき）




## テープ<br>TAPEモード（本機にRI接続したカセットデッキを操作するとき）

カセットデッキを操作する前に、RCVR/TAPE（レシーバー／テープ）ボタンを押してください。青いボタンは、どのリモコンモードでも使用できます。

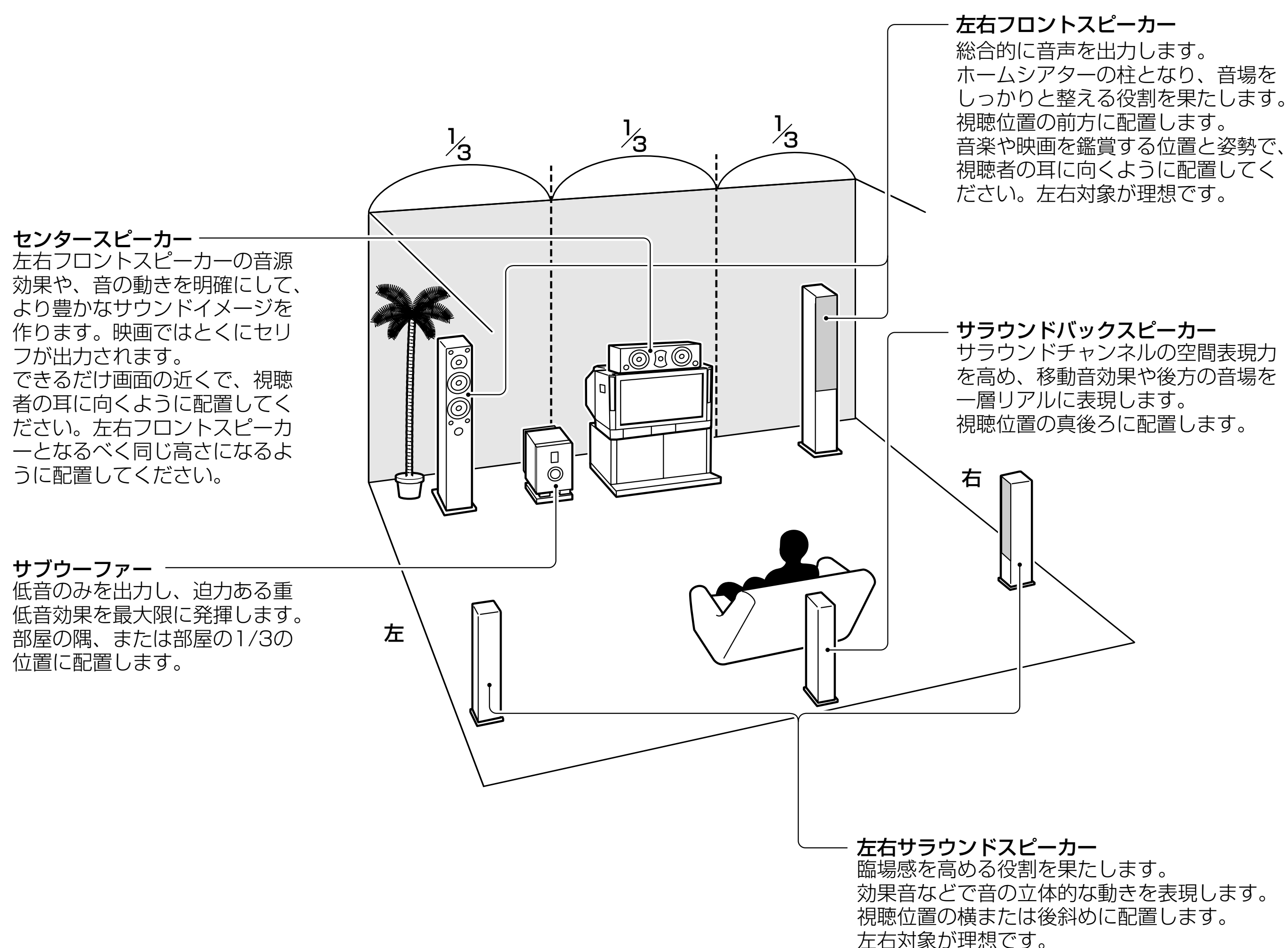


# ホームシアターとは

## ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
DVDではディスクの記録方法により、DTSやドルビーデジタル再生、テレビや衛星放送ではオンキヨー独自のDSPサラウンド再生をお楽しみいただけます。

**スピーカーの使いかた**
2つお持ちの場合、左右フロントスピーカーとして使用します。(2チャンネル再生)
3つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカーとして使用します。(3チャンネルサラウンド)
4つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(4チャンネルサラウンド)
5つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとして使用します。(5チャンネルサラウンド)
6つお持ちの場合、左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとして使用します。(6チャンネルサラウンド)
サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。(○.1チャンネル再生)




- 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、音が届く早さを一定にするため視聴位置からスピーカーの距離を設定する必要があります。また、音のバランスを調整するため、それぞれのスピーカーの音量の設定を行ってください。



TX-SA501(09-15)(SN29343481A) 15 03.3.31, 10:29 AM

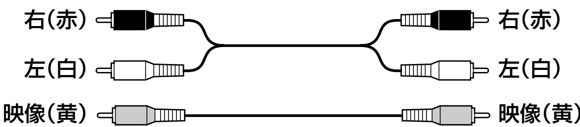
# 接続をする

## 接続の前に

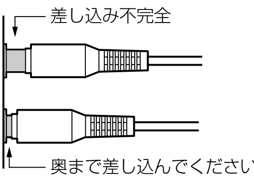
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードは全ての接続が終わるまでつながないでください。

**ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。**

- 入力端子は赤いコネクター(Rの表示)を右チャンネル、白いコネクター(Lの表示)を左チャンネル、黄色のコネクター(Vの表示)をビデオチャンネルに接続してください。




- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。




- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

**光デジタル入力端子/出力端子について**

本機の光デジタル端子はすべてシャッタータイプですので、フタをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

## 映像/音声ケーブルと端子の種類について

**映像ケーブルと端子の種類**

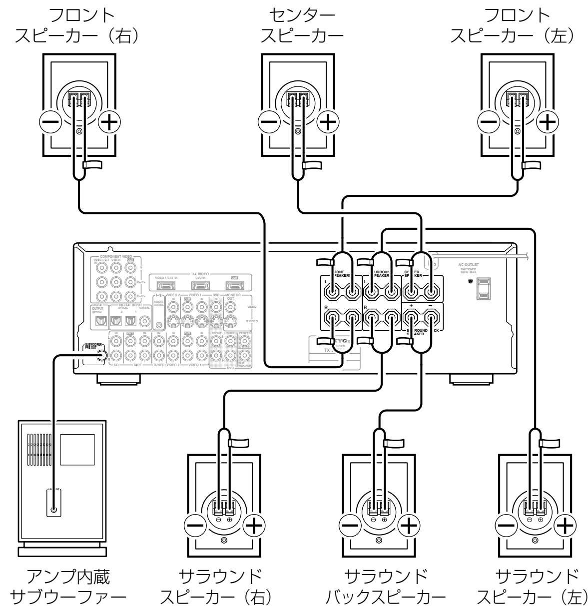
| ケーブルの名称 | ケーブルの形 | 端子の形 | ケーブルや端子の役割 |
|---|---|---|---|
| コンポーネントビデオコード | CR CB Y | Y CB/PB CR/PR | 画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。 |
| D端子用接続コード | | D4 | 画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。 |
| Sビデオコード | | S VIDEO | コンポジットの映像よりよい画質が得られます。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。 |
| ビデオコード（コンポジット） | | VIDEO | 標準的な映像信号で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。 |

**音声ケーブルと端子の種類**

| ケーブルの名称 | ケーブルの形 | 端子の形 | ケーブルや端子の役割 |
|---|---|---|---|
| 光デジタルケーブル（OPTICAL） | | OPTICAL | ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はCOAXIALと同レベルです。 |
| デジタルケーブル（COAXIAL） | | COAXIAL | ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質はOPTICALと同レベルです。 |
| オーディオ用ピンコード | | AUDIO L R | アナログ音声を伝送します。 |
| マルチチャンネル接続コード | | FRONT SURR CENTER L R SUB WOOFER | DVDオーディオ対応のDVDプレーヤーなどにあります。 |

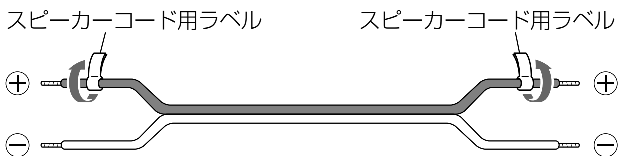
## スピーカーを接続する

スピーカーの配置については「ホームシアターとは」（☞15ページ）をご覧ください。
本機にはインピーダンスが6Ω〜16Ωのスピーカーを接続してください。インピーダンスが6Ω未満のスピーカーを接続すると、アンプが故障することがあります。




### スピーカーコード用ラベルの使いかた

本機はスピーカー端子の⊕側に色をつけて識別しやすくしています。付属のスピーカーコード用ラベルをお持ちのスピーカーコード両端のプラス⊕に貼ると識別が簡単になります。
本機のスピーカー端子は以下のように色分けしています。

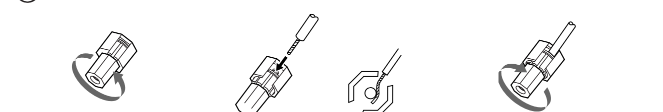



| | | |
|---|---|---|
| **左フロント** | ：白 | 左フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に白いラベルを貼る |
| **右フロント** | ：赤 | 右フロントスピーカーのコード両端（⊕側）に赤いラベルを貼る |
| **センター** | ：緑 | センタースピーカーのコード両端（⊕側）に緑のラベルを貼る |
| **左サラウンド** | ：青 | 左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に青いラベルを貼る |
| **右サラウンド** | ：灰 | 右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕側）に灰色のラベルを貼る |
| **サラウンドバック** | ：茶 | サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕側）に茶色のラベルを貼る |

### スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス⊕とスピーカーのプラス⊕端子にラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス⊖とスピーカーのマイナス⊖端子とをラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

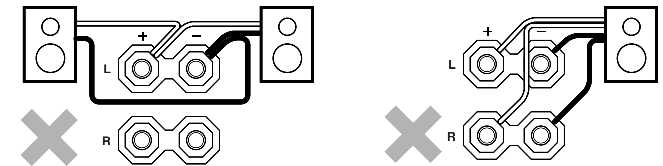
①スピーカーコードの被覆を15mmカットする
②しん線の先端をしっかりとよじる




③ねじをゆるめる
④しん線を差し込む
⑤ねじを締め付ける

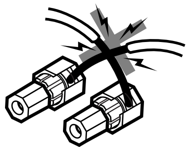
ご注意

- プラス⊕とマイナス⊖を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、１台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。



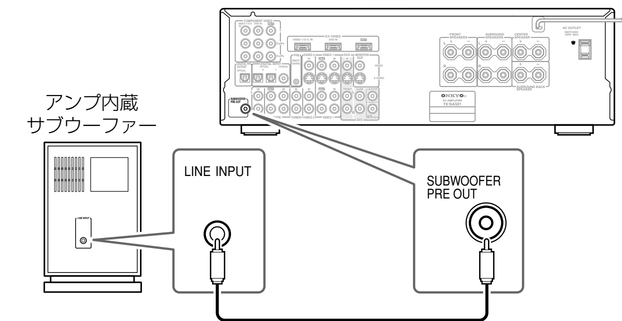

**危険**

回路の故障を防ぐため、スピーカーコードのしん線のプラスとマイナスを絶対に接触させないでください。



### サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーをSUBWOOFER PRE OUT端子に接続します。



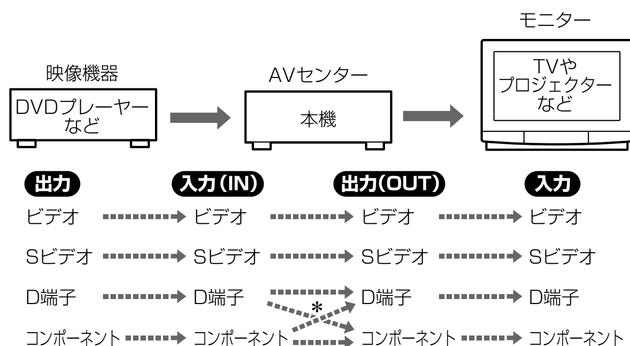
# 接続をする

## テレビやプロジェクターなどのモニターを接続する

映像をテレビなどのモニターに映すための接続です。

### 映像接続のしくみ

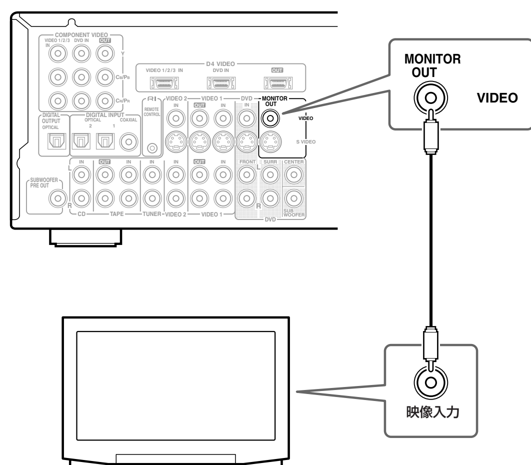
本機にはビデオ、Sビデオ、D端子、コンポーネントの4種類の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使います。




＊映像機器のD映像信号をコンポーネント出力したり、コンポーネント信号をD映像出力することができます。この場合、D映像による制御信号（アスペクト比など）は送られません。

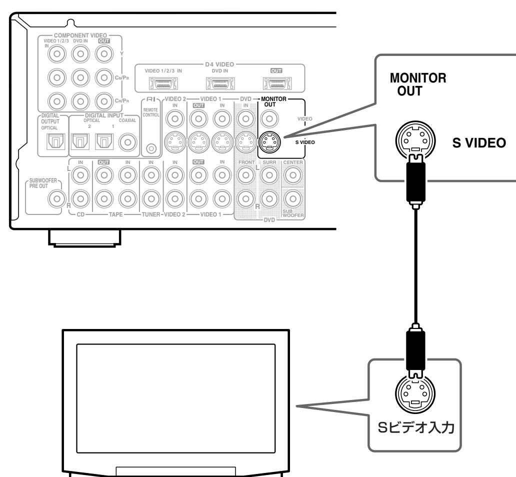
■ビデオ（コンポジット）入力端子と本機を接続する

ビデオコードでモニターの映像入力端子と本機のVIDEO MONITOR OUT端子を接続します。




■Sビデオ入力端子がある場合

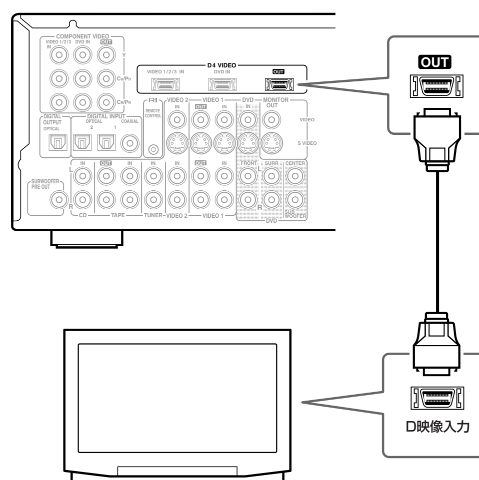
Sビデオコードでモニターの Sビデオ入力端子と本機のS VIDEO MONITOR OUT端子を接続します。




映像機器をコンポーネント接続またはD端子接続する場合はモニターもコンポーネント端子またはD端子に接続してください。

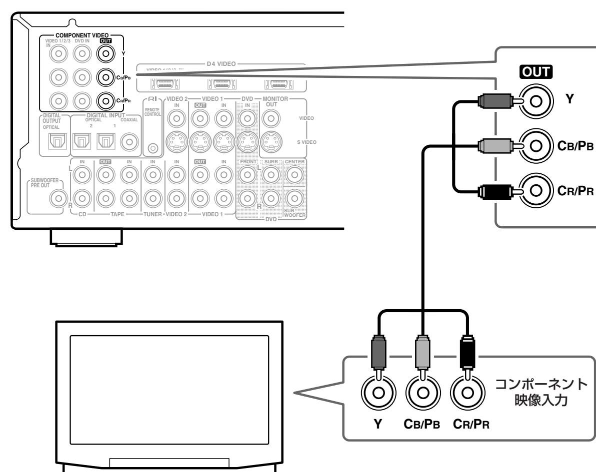
■D入力端子がある場合

D端子用接続コードでモニターのD映像入力端子と本機のD4 VIDEO OUT端子を接続します。




■コンポーネント入力端子がある場合

コンポーネントビデオコードでモニターのコンポーネント映像入力端子と本機のCOMPONENT VIDEO OUT端子を接続します。



## 映像機器を接続する　*映像機器はそれぞれ「映像の接続」と「音声の接続」が必要です。*

### *DVDプレーヤーの接続*



D4 VIDEO IN/OUT端子とCOMPONENT VIDEO IN/OUT端子は内部で並列に接続されていますので、1つの入力系統に両方を接続しないでください。たとえばD4 VIDEO端子のDVD INに映像機器を接続した場合は、COMPONENT VIDEO端子のDVD INには何も接続しないでください。

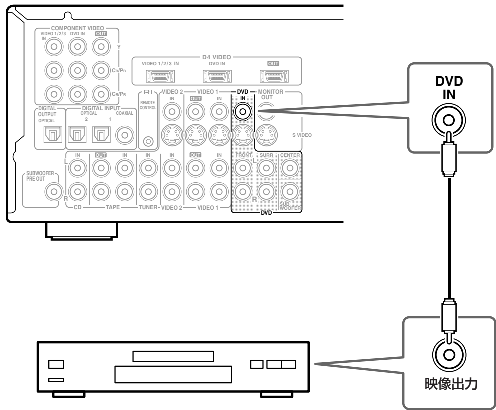
#### 映像の接続

以下のいずれかの接続をします。

**■ビデオ（コンポジット）出力端子を接続する場合**

ビデオコードでＤＶＤプレーヤーの映像出力端子と本機のVIDEO DVD IN端子を接続します。

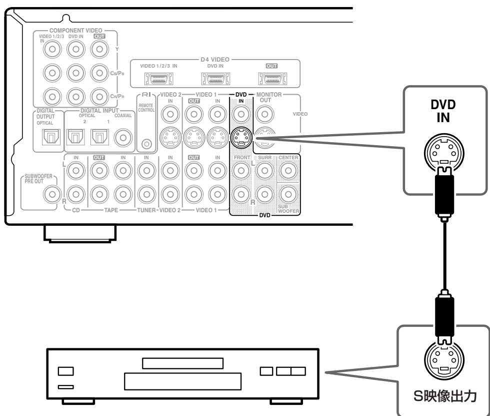
● モニターと本機もビデオ（コンポジット）接続をする必要があります。




**■Sビデオ出力端子がある場合**

SビデオコードでDVDプレーヤーのS映像出力端子と本機のS VIDEO DVD IN端子を接続します。ビデオ（コンポジット）接続より、良い画質が得られます。

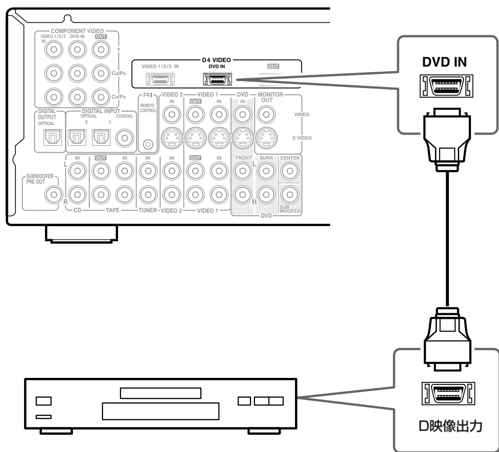
● モニターと本機もSビデオ接続をする必要があります。




**■D映像出力端子がある場合**

D端子用接続コードでDVDプレーヤーのD映像出力端子と本機のD4 VIDEO DVD IN端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

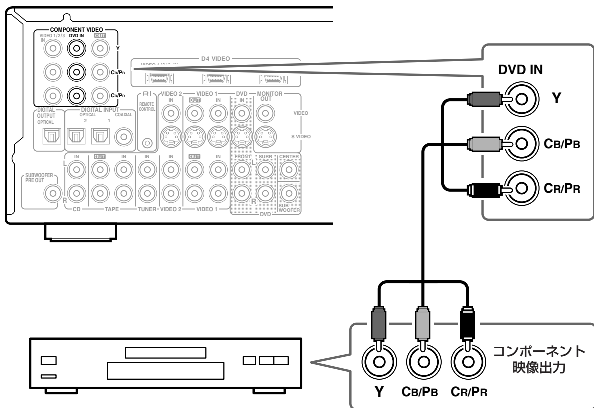
● モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。




**■コンポーネント映像出力端子がある場合**

コンポーネントビデオコードでDVDプレーヤーのコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT DVD IN1端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

● モニターと本機もコンポーネントまたはD端子接続をする必要があります。



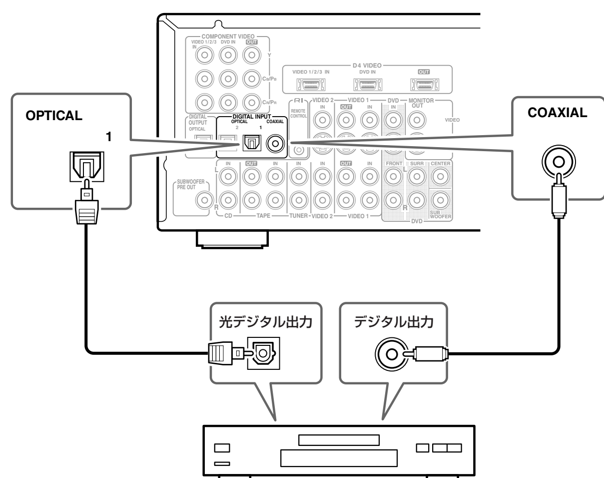
# 接続をする

## 音声の接続

### ■デジタル接続

本機でドルビーデジタルなどのデジタル音声をお楽しみいただけます。以下のいずれかの接続をします。

- OPTICALタイプの音声出力端子がある場合、光デジタルケーブルでDVDプレーヤーの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUT（OPTICAL 1）端子を接続します。
- COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、同軸デジタルケーブルでDVDプレーヤーのデジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUT（COAXIAL）端子を接続します。



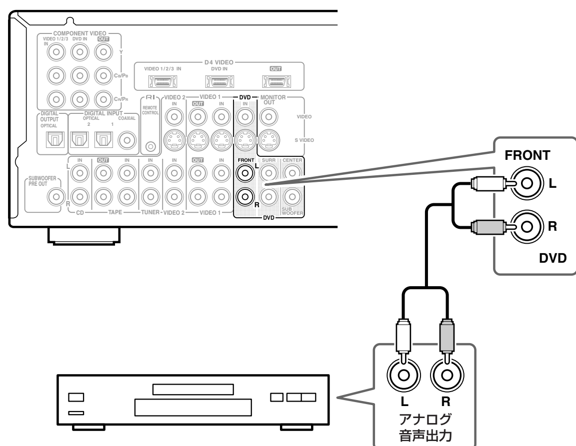

ご注意

DVDのデジタル入力はOPTICAL 1に設定されています。OPTICAL 2やCOAXIALに接続した場合は、「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞32ページ）

### ■アナログ接続

DVDの音声をアナログ録音する場合やオンキヨー製品で本機とRI連動させる場合の接続です。

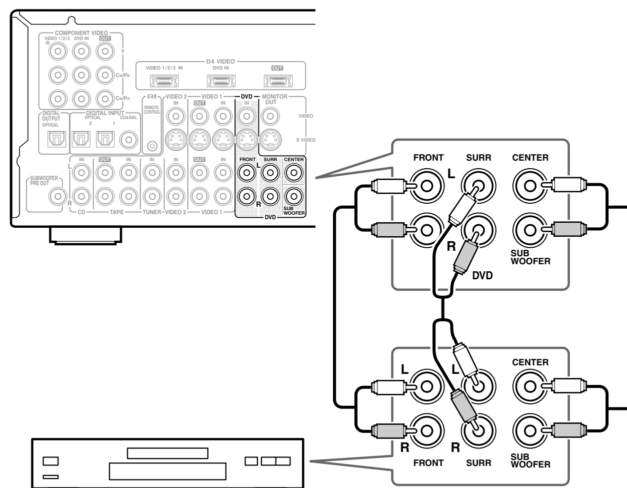
オーディオ用ピンコードでDVDプレーヤーの音声出力端子と本機のDVD FRONT L/R端子を接続します。




### ■マルチチャンネル(5.1ch)出力端子がある場合

DVDオーディオなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合、DVDオーディオなどの再生がお楽しみいただけます。

マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコード3本を使ってDVDプレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機のDVD FRONT L/R、SURR L/R、CENTER、SUBWOOFER端子を接続します。




ご注意

DVDプレーヤーに5.1チャンネルと2チャンネルの両方の出力端子がある場合で、本機のDVD IN FRONT L/R端子だけを接続するときはDVDプレーヤーの2チャンネル出力端子と接続してください。

## ビデオデッキの接続

### ■VHSビデオまたはS-VHSビデオの場合

#### 映像の接続

ビデオの映像を本機を通してお楽しみいただけます。

**Sビデオ端子またはビデオ（コンポジット）端子を接続する**

SビデオコードでビデオデッキのSビデオ出力端子と本機のS VIDEO VIDEO 1 IN端子を接続します。コンポジット接続より、良い画質が得られます。

- モニターと本機もSビデオ接続をする必要があります。

ビデオ（コンポジット）接続の場合は、ビデオコードでビデオデッキの映像出力端子と本機のVIDEO VIDEO 1 IN端子を接続します。

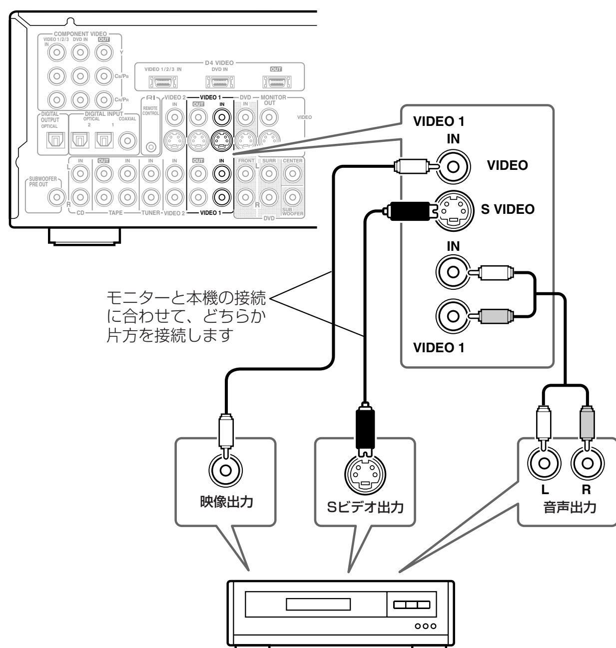
- モニターと本機もビデオ（コンポジット）接続をする必要があります。

#### 音声の接続

本機でビデオデッキの音声をお楽しみいただけます。

**アナログ接続**

オーディオ用ピンコードでビデオデッキの音声出力端子と本機のVIDEO 1 IN L/R端子を接続します。




### ■D-VHSビデオ（デジタル機能のあるビデオデッキ）の場合

#### 映像の接続

ビデオの映像を本機を通してお楽しみいただけます。

**D映像端子またはコンポーネント端子を接続する**

D端子接続の場合は、D端子用接続コードでビデオデッキのD映像出力端子と本機のD4 VIDEO 1/2/3 IN端子を接続します。S映像接続より、良い画質が得られます。

- モニターと本機もD端子またはコンポーネント接続をする必要があります。

コンポーネント接続の場合は、コンポーネントビデオコードで、ビデオデッキのコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO 1/2/3 IN端子を接続します。S映像接続より、良い画質が得られます。

- モニターと本機もコンポーネントまたはD端子接続をする必要があります。

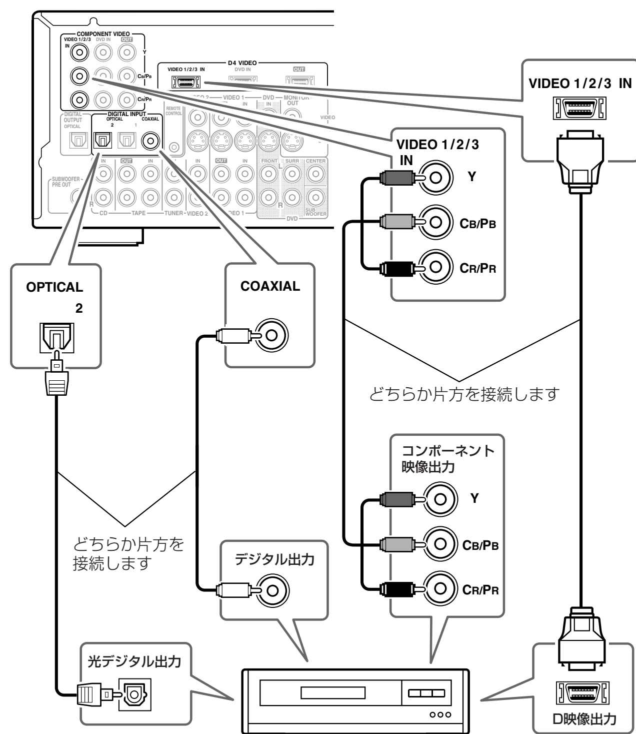
#### 音声の接続

本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。

**デジタル接続（D-VHSビデオ）**

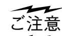
OPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、ビデオデッキのデジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUT 2端子を接続します。

COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、ビデオデッキのデジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUT（COAXIAL）端子を接続します。

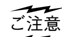


■本機を通して録画するには

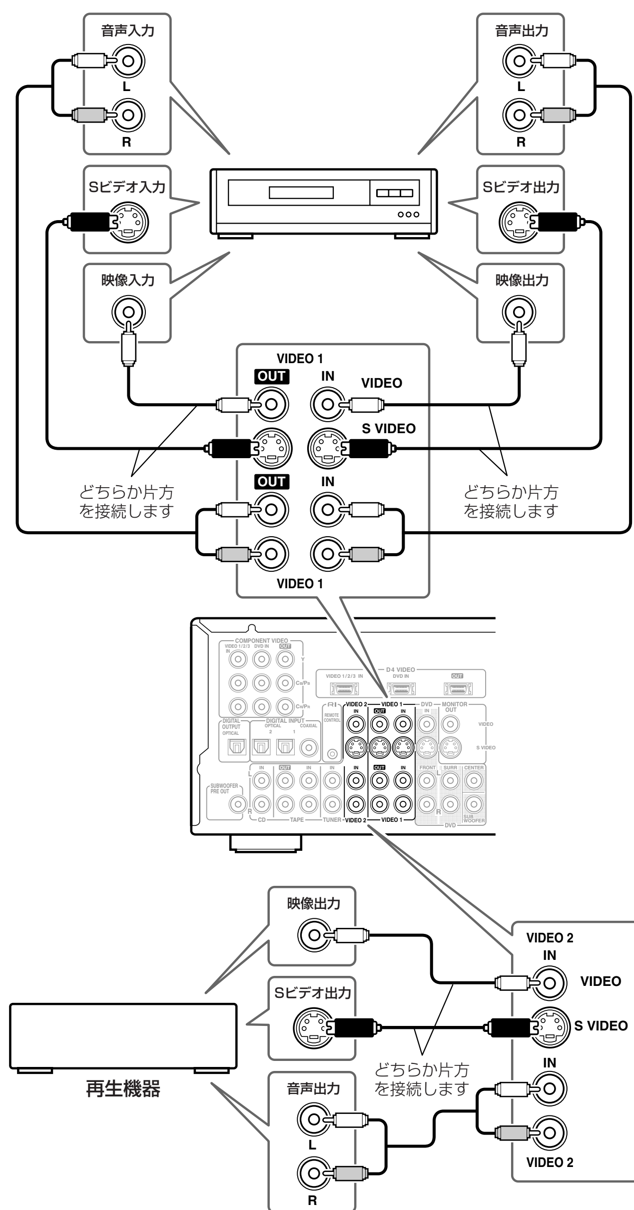
本機のS VIDEO VIDEO 1 OUT端子とビデオデッキのS映像入力端子、または本機のVIDEO VIDEO 1 OUT端子とビデオデッキのVIDEO入力端子を接続します。
オーディオ用ピンコードで本機の音声 VIDEO 1 OUT L/R端子とビデオデッキの音声入力端子を接続します。
テレビなどの再生機器の音声出力端子と本機の音声入力端子を接続します。




ビデオ端子に入力される信号は、ビデオ端子にしか出力されません。テレビなどの再生機器をビデオ端子接続した場合は、ビデオデッキもビデオ端子接続をしてください。また、S端子に入力される信号はS端子にしか出力されません。テレビなどの再生機器をS端子接続した場合は、ビデオデッキもS端子接続をしてください。




録画をするときは本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態のままでは録画できません。




■本機を通さずに録画するには

テレビなどの再生機器の映像出力端子を直接ビデオデッキの映像入力端子に接続します。
再生機器の音声出力端子も直接ビデオデッキの音声入力端子に接続します。
詳細はお手持ちのビデオデッキや再生機器の取扱説明書をご覧ください。

## *テレビ、BSチューナー、LDプレーヤーなどの接続*

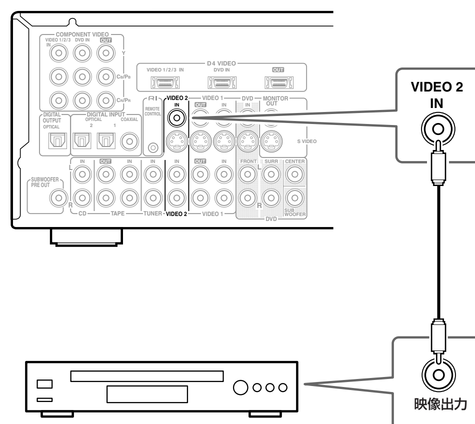
### 映像の接続

以下のいずれかの接続をします。コンポーネント端子またはD端子の接続をする場合は、本機とモニターもD端子またはコンポーネント端子の接続をしてください。
テレビを接続する場合は、以下の映像の接続をする必要はありません。音声の接続のみをします。

■ビデオ（コンポジット）出力端子がある場合

ビデオコードで接続する機器の映像出力端子と本機のVIDEO 2 IN端子を接続します。

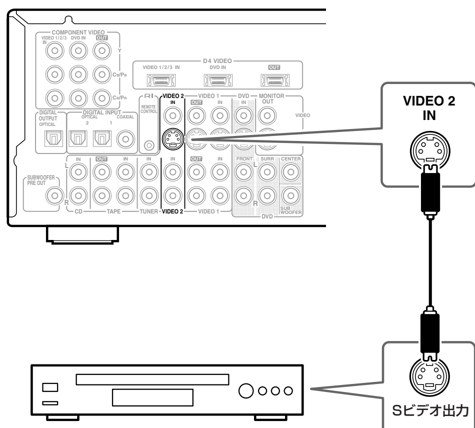
● モニターと本機もビデオ（コンポジット）接続をする必要があります。




■Sビデオ出力端子がある場合

Sビデオコードで接続する機器のSビデオ出力端子と本機のS VIDEO 2 IN端子を接続します。ビデオ接続より、良い画質が得られます。

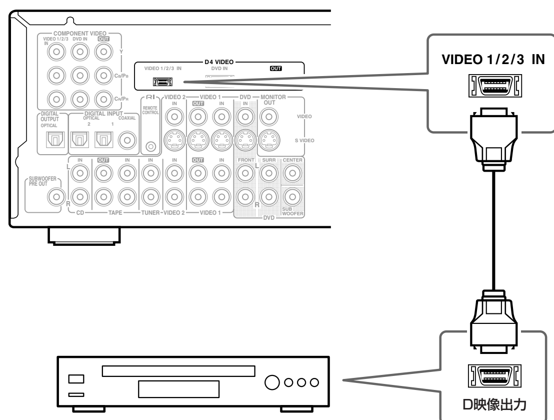
● モニターと本機もSビデオ接続をする必要があります。



## ■D映像出力端子がある場合

D端子用接続コードで接続する機器のD映像出力端子と本機のD4 VIDEO VIDEO 1/2/3 IN端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

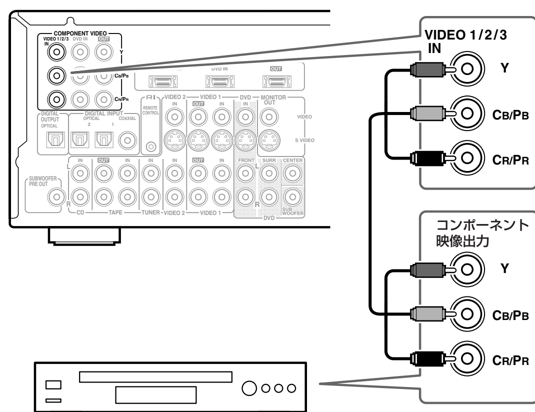
- モニターと本機もD端子接続をする必要があります。




## ■コンポーネント映像出力端子がある場合

コンポーネントビデオコードで接続する機器のコンポーネント映像出力端子と本機のCOMPONENT VIDEO VIDEO 1/2/3 IN端子を接続します。Sビデオ接続より、良い画質を得られます。

- モニターと本機もコンポーネント接続をする必要があります。




## 音声の接続

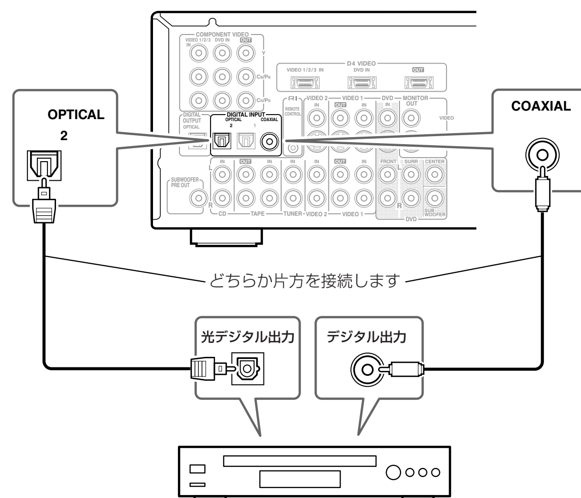
## ■デジタル接続

本機でデジタル音声をお楽しみいただけます。

- OPTICALタイプの音声出力端子がある場合、光デジタルケーブルで接続する機器の光デジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUT（OPTICAL）2端子を接続します。
- COAXIALタイプの音声出力端子がある場合、同軸デジタルケーブルで接続する機器のデジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUT（COAXIAL）端子を接続します。

ご注意

デジタル入力はあらかじめ設定されています。デジタル接続する場合は、「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞32ページ）

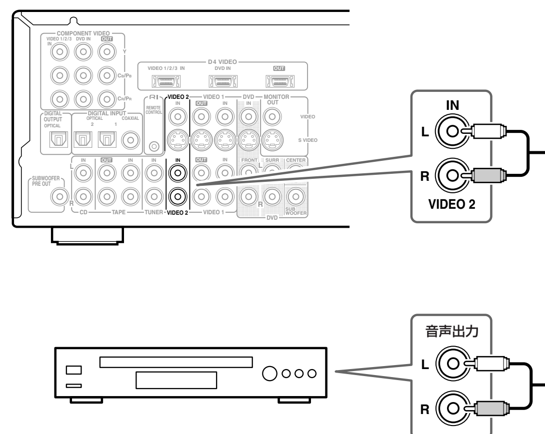



ご注意

本機にLDプレーヤーのAC-3RF出力端子は直接接続できません。LDプレーヤーでドルビーデジタル5.1chソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

## ■アナログ接続

デジタル音声出力端子がない場合や接続する機器の音声をアナログ録音する場合は、オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子と本機のVIDEO2 IN L/R端子を接続します。



## ビデオカメラやテレビゲームの接続

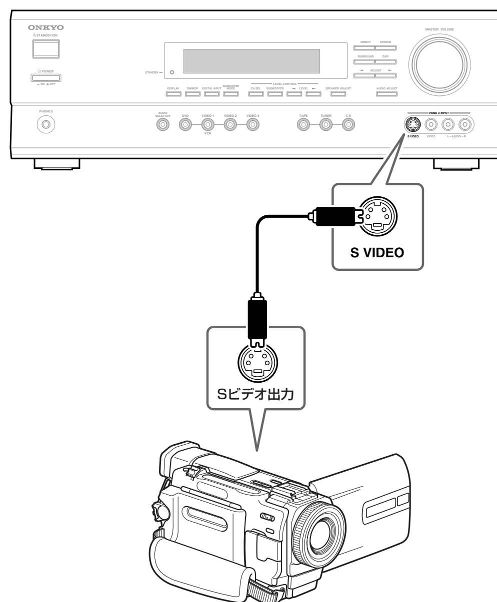
ビデオカメラやテレビゲームを前面パネルの端子に接続できます。

### 映像の接続

**■Sビデオ出力端子がある場合**

Sビデオコードで接続する機器のS映像出力端子と本機前面のS VIDEO 3 INPUT S端子を接続します。

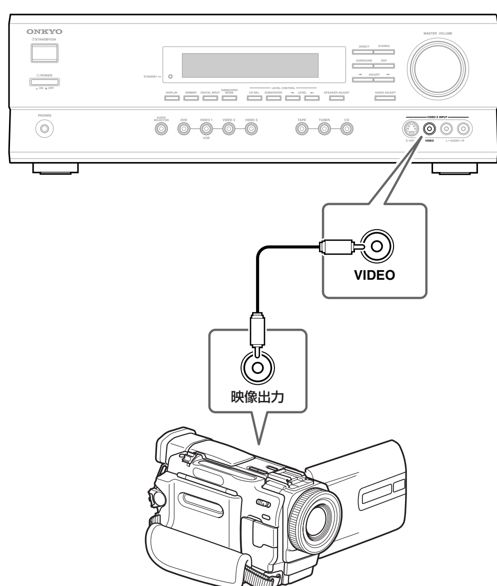
- モニターと本機もSビデオ接続をする必要があります。




**■Sビデオ出力端子がない場合**

ビデオコードで接続する機器のビデオ（コンポジット）出力端子と本機前面のVIDEO 3 INPUT端子を接続します。

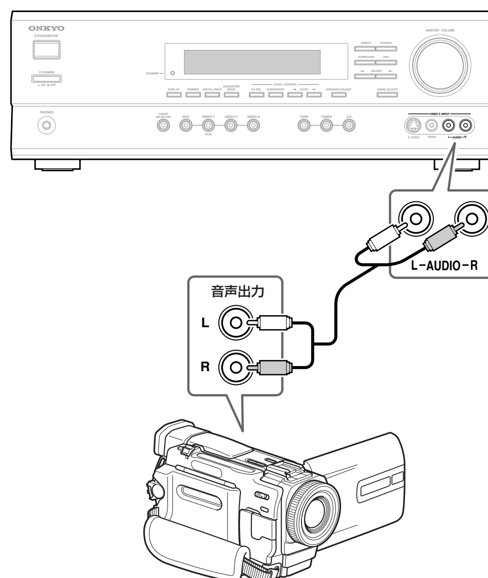
- モニターと本機もビデオ（コンポジット）接続をする必要があります。




### 音声の接続

**■アナログ接続**

オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子と本機前面のAUDIO INPUT端子を接続します。



## オーディオ機器を接続する

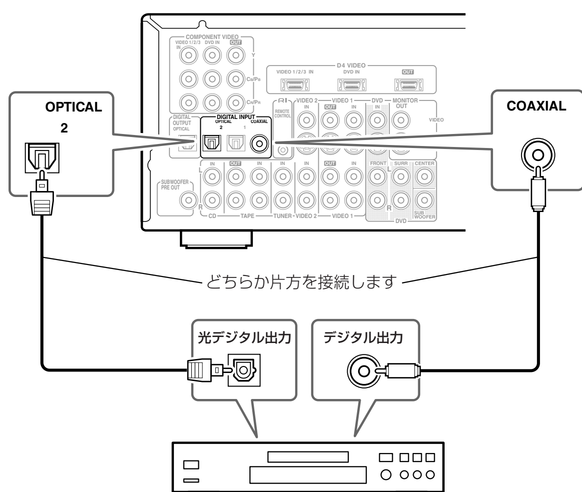
### CDプレーヤーを接続する

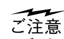
■デジタル接続

CDは左右フロント2チャンネルで記録されているため、デジタル接続をしてもドルビーデジタルなどの音声はお楽しみいただけません。また、アナログ接続のみでもドルビープロロジックなどの音声はお楽しみいただけます。

OPTICALタイプの音声出力端子がある場合は、光デジタルケーブルでCDプレーヤーの光デジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUT（OPTICAL）端子を接続します。

COAXIALタイプの音声出力端子がある場合は、同軸デジタルケーブルでCDプレーヤーのデジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUT（COAXIAL）端子を接続します。



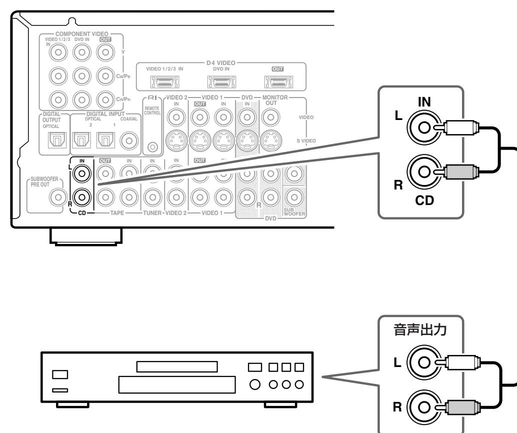




CDのデジタル入力はあらかじめCOAXIALに設定されています。OPTICAL端子に接続した場合は「デジタル入力端子の設定」を変更する必要があります。（☞32ページ）

■アナログ接続

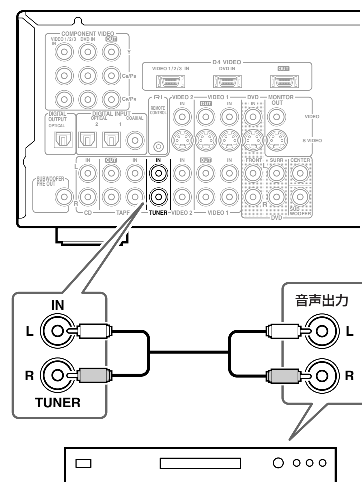
アナログ録音をする場合やオンキヨー製CDプレーヤーで本機とRI連動をさせる場合の接続です。

オーディオ用ピンコードで、CDプレーヤーの音声出力端子と本機のCD IN L/R端子を接続します。




### チューナーを接続する

オーディオ用ピンコードで、チューナーの音声出力端子と本機のTUNER IN L/R端子を接続します。

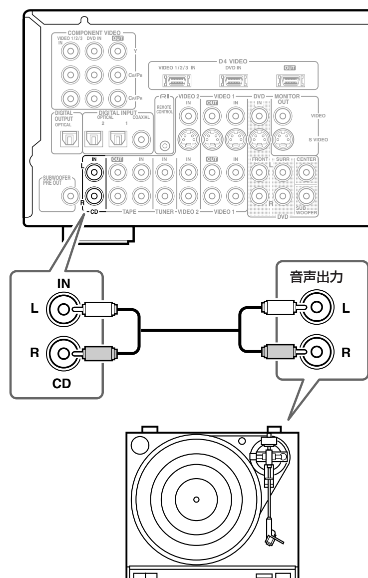


# 接続をする

## レコードプレーヤーを接続する

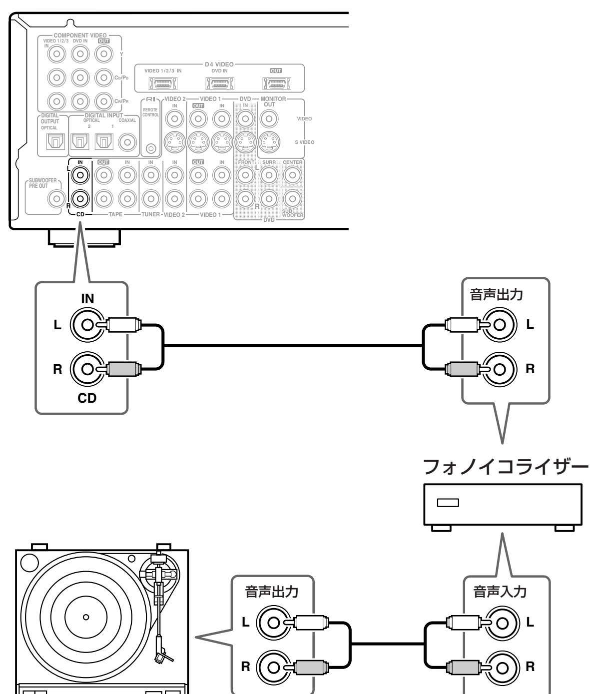
### ■レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵の場合

オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーの音声出力端子と空いているAUDIO IN端子を接続します。




### ■レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵でない場合

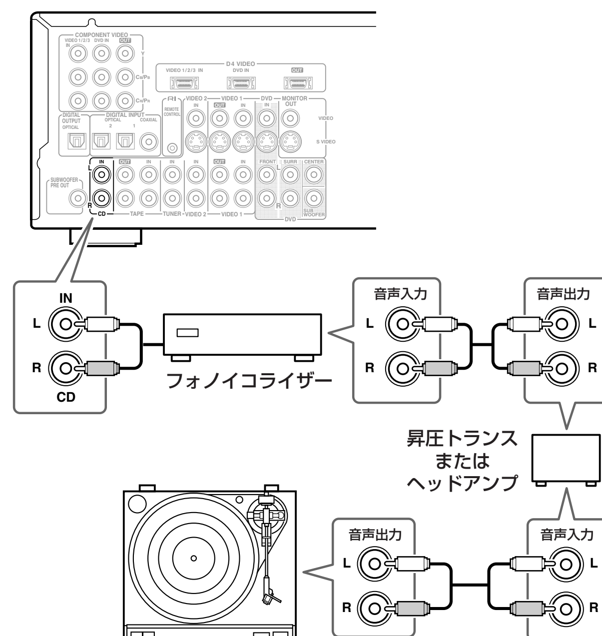
オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーとフォノイコライザーの音声入力端子を接続し、フォノイコライザーと空いているAUDIO IN端子を接続します。




### ■MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーの場合

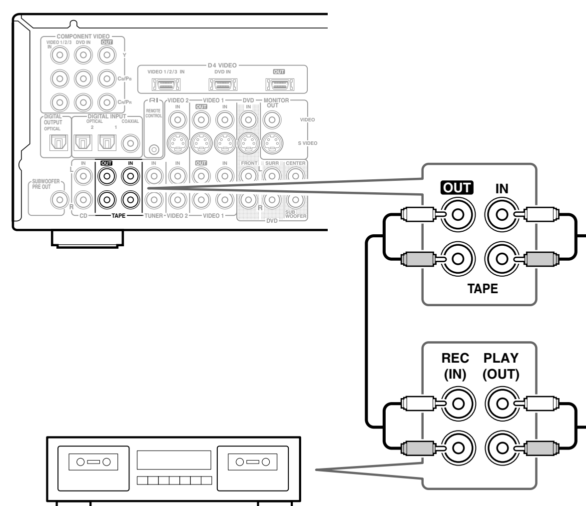
オーディオ用ピンコードでレコードプレーヤーと昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続し、それにフォノイコライザーを接続します。

フォノイコライザーを本機の空いているAUDIO IN端子に接続します。




## カセットデッキを接続する

オーディオ用ピンコードでカセットデッキの音声出力端子（PLAY）と本機のTAPE IN L/R端子を接続します。また、音声入力端子（REC）と本機のTAPE OUT L/R端子を接続します。

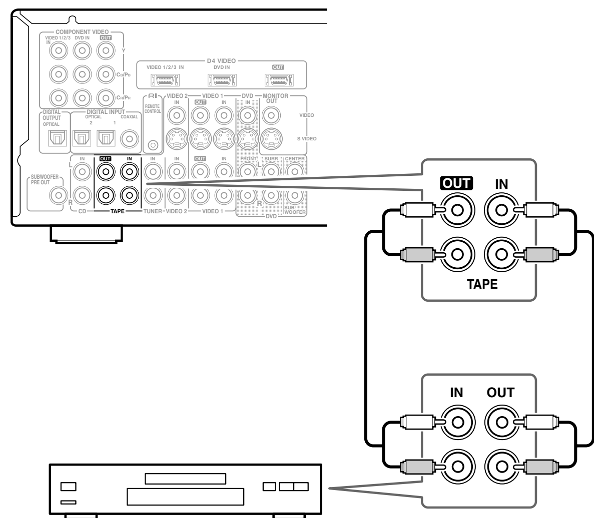


## MDレコーダー、DAT、CDレコーダーを接続する

カセットデッキの代わりにMDレコーダー、DAT、CDレコーダーなどの録音機器を接続することができます。

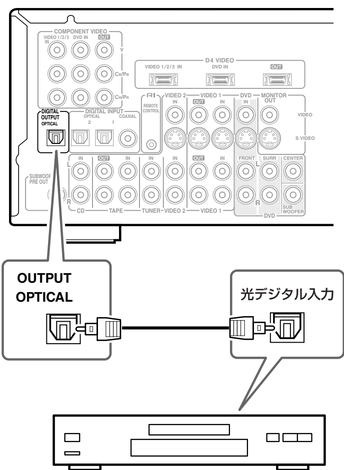
### ■ アナログ接続

オーディオ用ピンコードで接続する機器の音声出力端子（PLAY）と本機のTAPE IN L/R端子を接続します。また、音声入力端子（REC）と本機のTAPE OUT L/R端子を接続します。




### ■ デジタル録音をするには

接続する機器にデジタル入力端子がある場合は本機のDIGITAL OUTPUT（OPTICAL）端子に接続するとデジタル録音ができます。
デジタル録音ができる音声信号はDIGITAL INPUT端子に入力された信号のみです。

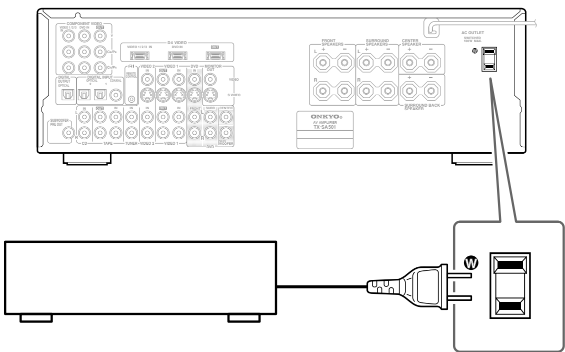



## 他機の電源プラグを本機につなぐ（AC OUTLET）

本機は後面に電源コンセントがありますので、組み合わせて使用する製品の電源プラグを差し込むことができます。スタンバイ状態のときに本機の電源を入れると他機の電源も連動して入ります。
100Wを超える機器は絶対に接続しないでください。RI端子付きのオンキヨー製品は、常時通電しているコンセントにつないでください。

### よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。他機の電源コードに目印がある場合は目印線側を本機の電源コンセントのⓦ側に合わせてください。他機の電源コードに目印がない場合はどちらを接続してもかまいません。



# 接続をする

## オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのオンキヨー製品にRIケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。16〜27ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

TX-SA501

RI
REMOTE
CONTROL

IN
L
R
CD

FRONT
L
R

音声出力
L
R

DVDプレーヤーなど

RI

音声出力
L
R

CDプレーヤーなど

RI

### オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ご注意

RI接続した機器の電源コードが本機の電源コンセント（AC OUTLET）に接続されている場合はこの機能は働きません。

### ダイレクトチェンジ機能

RI接続されている機器を再生すると、本機の入力が自動的に切り換わります。

### リモコン操作機能

本機に付属のリモコンで各機器を操作することができます。（MDレコーダーの操作はできません。）

ご注意

- 製品によってはRI接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。

## RIオーディオコントロール端子付きテレビとの連動について

本機はRI端子を持つテレビと接続すると次の動作が可能になります。

① テレビの電源を入れると本機の電源も自動的に入り、入力が切り換わります。
このときテレビの音は消え、本機に接続されたスピーカーから音が出ます。また、テレビを切る（スタンバイにする）と、本機もスタンバイ状態になります。ただし、本機で他の入力を選んでいる場合は、スタンバイ状態になりません。

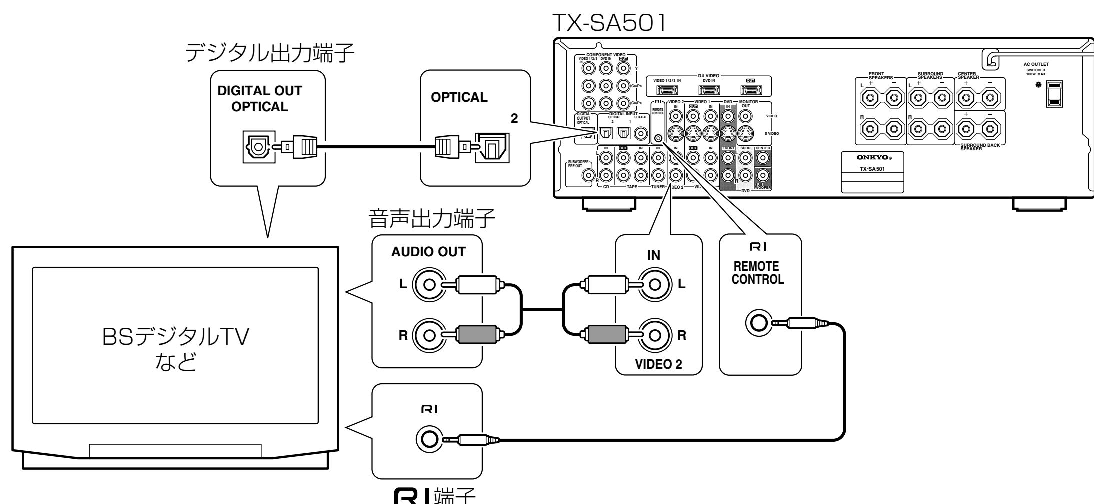
② テレビに付属のリモコンで本機の音量調整、ミューティング（消音）ができます。

③ 本機をスタンバイ状態にするとテレビの音が復帰し、テレビに付属のリモコンでテレビ側の機能（音量、消音）をコントロールできるようになります。

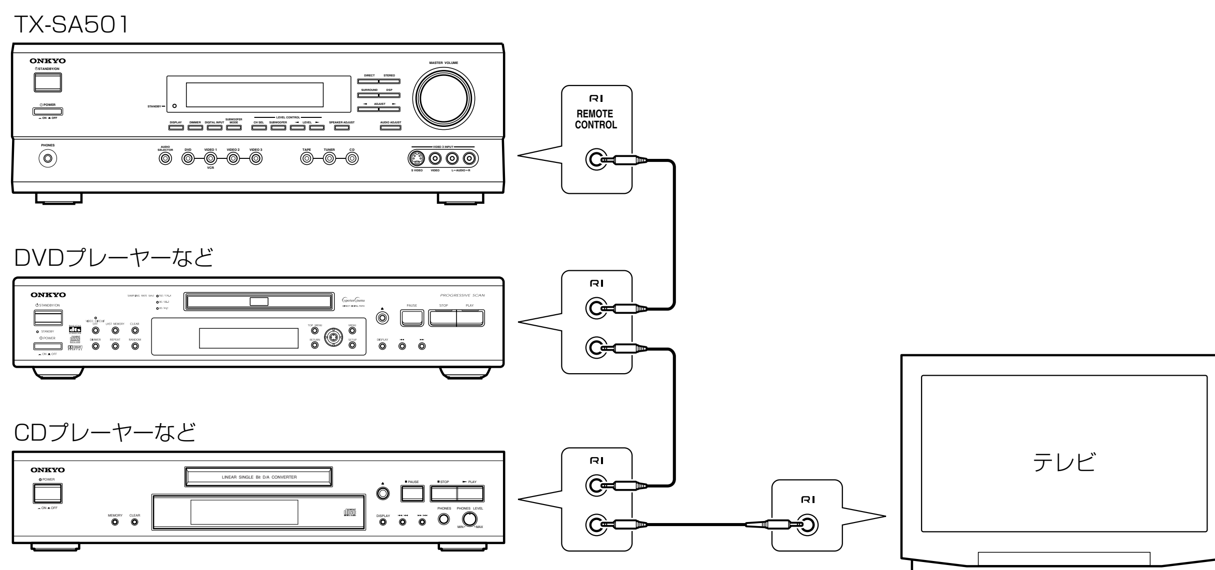
連動動作が可能なテレビについては、テレビのカタログや取扱説明書で、RI端子が装備されているかどうかをご確認ください。
本機にケーブルは付属していません。モノラルミニプラグコード（抵抗なし）を別途お求めください。

### 接続のしかた

- 本機のVIDEO(ビデオ)2音声入力（VIDEO 2 IN L/R）端子を接続する
- モノラルオーディオコードでテレビのRIオーディオコントロール端子と本機のRI端子を接続する
- テレビの光デジタル音声出力端子と本機のDIGITAL(デジタル) INPUT(インプット) OPTICAL(オプティカル) 2端子と接続する
（テレビに光デジタル音声出力端子がない場合は接続する必要はありません）

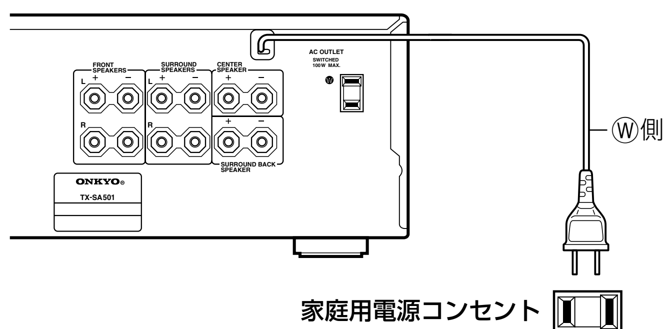



- 他のオンキヨー製品を接続する場合は、RIケーブルでRI端子どうしを接続してください。
- RI端子が2つある製品の場合、2つの働きは同じですのでどちらにでも接続できます。
- RI端子の接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。



# 接続をする

## 電源コードを接続する



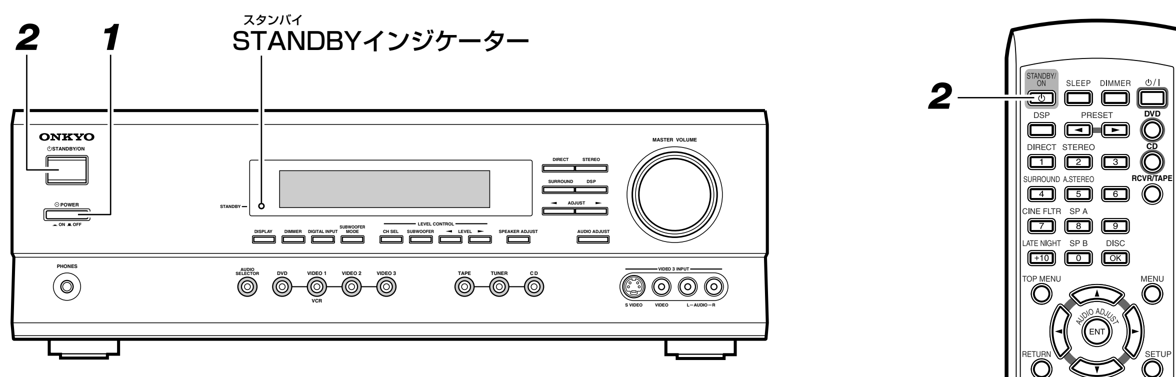

### 電源コードを接続する前に

すべての接続が完了していることを確認してください。
本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。
コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

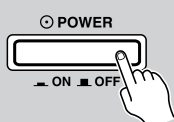
### よりよい音で聞いていただくために

本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源コードの目印線（↑W↑）側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合はどちらを接続してもかまいません。

## 電源を入れる



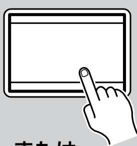

**1**




### POWER（パワー）スイッチを押して、主電源を入れる

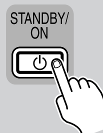
STANDBY（スタンバイ）インジケーターが点灯し、スタンバイ状態となります。
※お買い上げ時には、本機のPOWERスイッチは「ON（オン）」の状態になっていますので、電源コードのプラグをコンセントに差し込むとスタンバイ状態となります。

**2**




本体

または




リモコン

### 本体またはリモコンの STANDBY/ON（スタンバイ/オン） ボタンを押す

STANDBYインジケーターが消え、表示部が点灯します。

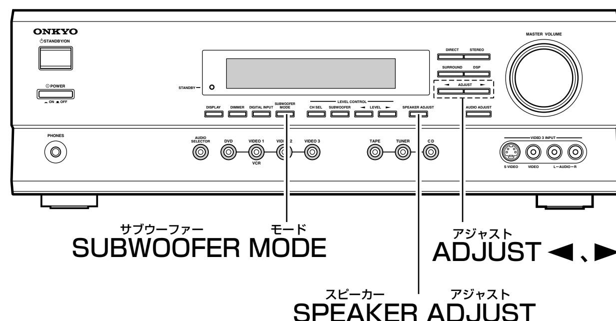
**スタンバイ状態に戻すには**

本体またはリモコンのSTANDBY/ONボタンを押します。

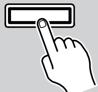
# 初期設定をする

## スピーカーの設定をする

本機に接続した、サブウーファー以外のスピーカーの数を設定します。



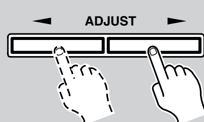

**1**



### SPEAKER ADJUST ボタンを押して、「Speaker：」表示にする

Speaker:

**2**



### 表示している間に ADJUST ◄/►ボタンを（くり返し）押して、接続しているスピーカーの構成を選ぶ

Speaker: 6ch

左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーを接続している場合に選びます。

Speaker: 5ch

左右フロントスピーカー、センタースピーカー、左右サラウンドスピーカーを接続している場合に選びます。

Speaker: 4ch

左右フロントスピーカーと左右サラウンドスピーカーを接続している場合に選びます。

Speaker: 3ch

左右フロントスピーカーとセンタースピーカーを接続している場合に選びます。

Speaker: 2ch

左右フロントスピーカーのみ接続している場合に選びます。

**現在のスピーカー構成の設定を確認するには**

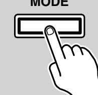
通常表示のときにSPEAKER ADJUSTボタンを1回押します。

約8秒間、何も操作しないと表示は元に戻ります。

## サブウーファーモードを選ぶ

お好みでサブウーファーモードを選べます。

**1**

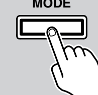


### SUBWOOFER MODE ボタンを押す

現在の設定が約3秒間表示されます。

Subwoofer Mode1

**2**



### 現在の設定が表示されている間に、 SUBWOOFER MODE ボタンをくり返し押して、サブウーファーモードを選ぶ

ボタンを押すたびに、以下のようにモードが切り換わります。

- Mode 1: すべてのチャンネルの低音をサブウーファーから出したい場合
- Mode 2: センター、サラウンドチャンネルからの低音をサブウーファーから出したい場合
- Mode 3: 5.1チャンネルソースで、サブウーファー用に記録されている音声のみをサブウーファーから出したい場合
- Off: サブウーファーを接続していないとき、または接続しても使用しない場合

ご注意

サブウーファーモードを「Mode 2」や「Mode 3」に設定し、ステレオで再生している場合、ソースによってはサブウーファーから音が出ない場合があります。
（2チャンネルのドルビーデジタルソースやDTSソースなど）

# 初期設定をする

## 入力の設定をする

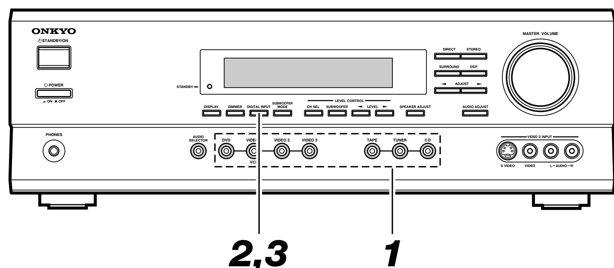
### デジタル入力端子の設定

本機後面のデジタル入力端子には、それぞれデジタル再生機器が割り当てられています。接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。

| 入力ソース | デジタル入力端子の初期設定 |
|---|---|
| DVD | OPT1（オプティカル1） |
| VIDEO 1（ビデオ） | ―――― |
| VIDEO 2 | OPT2（オプティカル2） |
| VIDEO 3 | ―――― |
| TAPE（テープ） | ―――― |
| TUNER（チューナー） | ―――― |
| CD | COAX（コアキシャル） |

**例：本機後面のOPT 2端子にCDプレーヤーを接続した場合**
CDのデジタル入力端子の初期設定はCOAXのため、「OPT2」に設定を変更する必要があります。

**本機後面のOPT 1端子にDVD以外の機器を接続した場合**
DVDのデジタル入力端子の初期設定はOPT 1のため、「----」に設定を変更する必要があります。




**1** 入力切換ボタンを押して、変更したい入力ソースを選ぶ

**2** DIGITAL（デジタル） INPUT（インプット）ボタンを押す

現在の設定が表示されます。

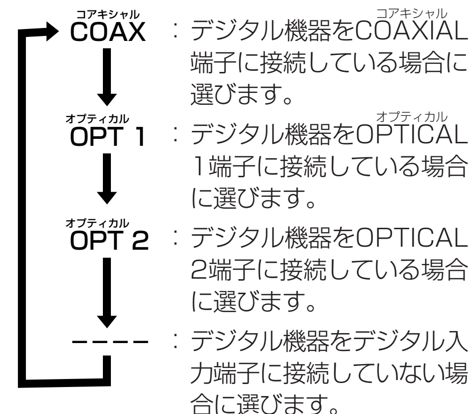
CD ← COAX

**3** DIGITAL INPUTボタンをくり返し押して、接続した端子を表示させる

CD ← OPT2

本機後面のOPT2（オプティカル）端子にCDプレーヤーを接続した場合

ボタンを押すたびに以下のように表示が切り換わります。

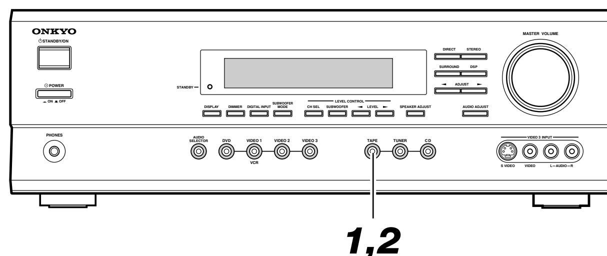



COAX（コアキシャル）：デジタル機器をCOAXIAL（コアキシャル）端子に接続している場合に選びます。
OPT 1（オプティカル）：デジタル機器をOPTICAL（オプティカル）1端子に接続している場合に選びます。
OPT 2（オプティカル）：デジタル機器をOPTICAL 2端子に接続している場合に選びます。
----：デジタル機器をデジタル入力端子に接続していない場合に選びます。

約3秒後に元の表示に戻り、設定が完了します。

### 入力表示を切り換える

オンキヨーのRI端子付きMDレコーダーを本機のTAPE端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。（入力表示を切り換えても、本機に付属のリモコンで接続したMDレコーダーを操作することはできません。）




**1** 入力切換ボタンの「TAPE（テープ）」を押し、表示部に「TAPE」を表示させる

TAPE

**2** 「TAPE」表示が「MD」表示に切り換わるまで、TAPEボタンを押し続ける（約２秒かかります。）

MD

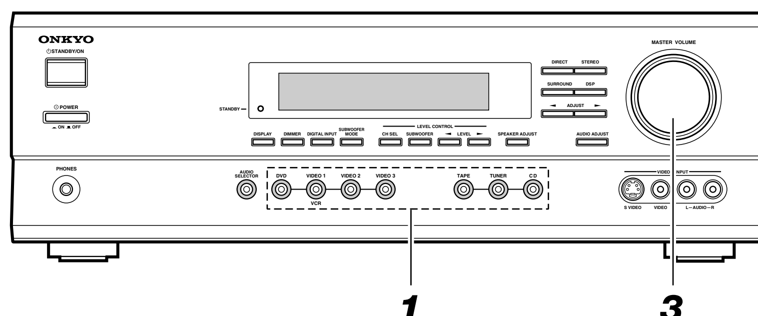
■入力表示切り換えを元に戻すには

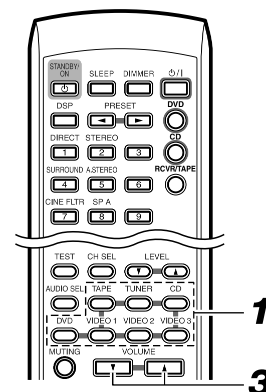


「MD」表示が「TAPE」表示に切り換わるまで、TAPEボタンを押し続ける（約2秒かかります。）

# 映画・音楽を鑑賞する（基本編）

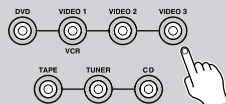
## 接続した機器を再生する



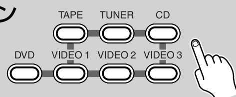

### 1

本体




または

リモコン




**演奏する機器を選ぶ**

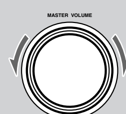
本体またはリモコンの入力切換ボタンを押します。

### 2

**選んだ機器の演奏を始める**

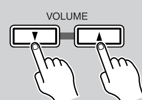
映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。
また、再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

### 3




本体

または

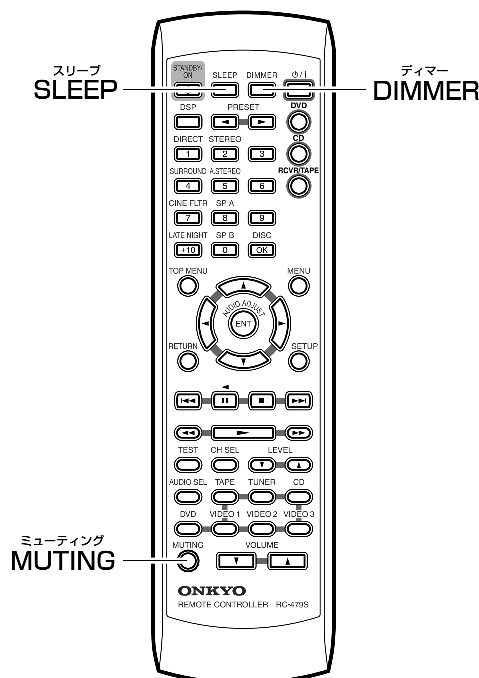



リモコン

**本体のMASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）つまみ、またはリモコンのVOLUME（ボリューム） ▲/▼ボタンで音量を調整する**

音量は基本的にMin・1・2‥‥‥78・79・Maxまでの範囲で調整できます。

# 映画・音楽を鑑賞する（基本編）




## 一時的に音量を小さくする




### リモコンのMUTING（ミューティング）ボタンを押す

表示部に「MUTING」が点滅します。

**■解除するには**

もう一度MUTINGボタンを押してください。
（音量を変えたり、STANDBY（スタンバイ）/ON（オン）ボタンを押した場合にも解除されます。）

## 表示部の明るさを変える

表示部の明るさを変えることができます。




### リモコンのDIMMER（ディマー）ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

→ やや暗い → 暗い → ふつう →

！ヒント　本体のDIMMERボタンでも操作できます。

## スリープタイマーを使う




### リモコンのSLEEP（スリープ）ボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中はSLEEPインジケーターが点灯します。

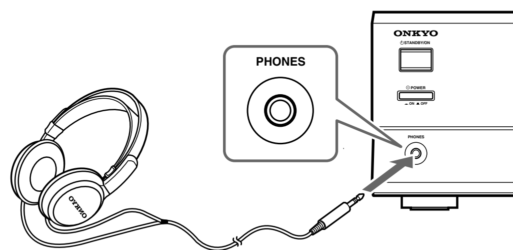
**■残り時間を確認するには**

スリープタイマーが予約されているときにSLEEPボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が10分以下のときに再びSLEEPボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

**■スリープタイマーを解除するには**

SLEEPインジケーターが消えるまで、くり返しSLEEPボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

## ヘッドホンで聞く

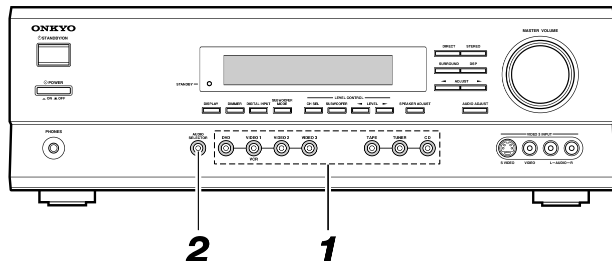



### PHONES（フォーンズ）端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

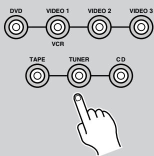
- 接続する時は音量を下げてください。
- スピーカーからの音が消えます。
- 「Direct（ダイレクト）」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo（ステレオ）」になり、ヘッドホンのプラグを抜くと元のリスニングモードに戻ります。
- ヘッドホン接続時は、「Direct」または「Stereo」のリスニングモードが選択できます。
- マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聞こえます。

## 音声信号の種類を選ぶ

音声信号にはアナログ、デジタル、マルチチャンネルの3種類があります。
それぞれの入力端子に接続している機器に合わせて、どの信号を再生するかを選択できます。




**1**



### 本体の入力切換ボタンで設定する機器を選ぶ

**2**



### 本体のAUDIO SELECTORボタンを押す

現在の設定が表示されている間に、本体のAUDIO SELECTORボタンを押すと、以下のように表示が切り換わります。




Auto：
デジタル信号を優先して再生しますが、デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。
デジタル接続をしており、デジタル入力端子が設定されている場合に選べます。

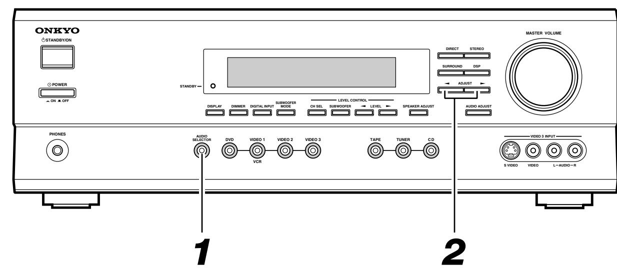
Multich：
マルチチャンネルの音声を再生します。
アナログマルチチャンネル対応のDVDプレーヤーなどをマルチチャンネル接続している場合に選びます。

Analog：
アナログ信号を再生します。1つの機器をアナログ/デジタルの両方に接続していてもアナログ音声信号を再生します。

！ヒント

リモコンの入力切換ボタン、AUDIO SELボタンでも操作できます。

## AutoモードをDTS、PCMに固定する

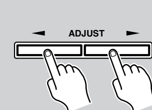



**1**



### 本体のAUDIO SELECTORボタンを(くり返し)押して「Auto」を選ぶ

**2**



### 「Auto」表示中にADJUST◀/▶ボタンで設定するモードを選ぶ

Auto：
入力される信号に適したデジタル信号を優先して再生します。デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

DTS：
AutoでDTS-CDを再生するときDTS信号を識別して読み取る間や、CDの早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択します。DTS以外の音声が入力されても音は出ません。

PCM：
AutoでCDなどのPCMの曲間で頭切れが気になる場合に選択します。PCM以外の音声が入力されても音は出ません。

ご注意

DTS対応のCDやLDを再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択するとノイズが出力されます。

！ヒント

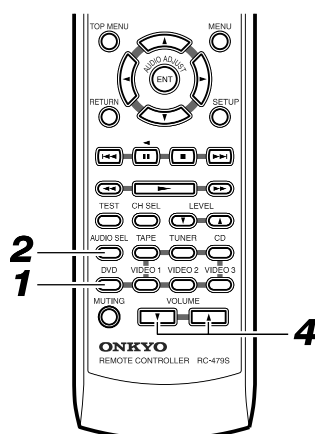
リモコンのAUDIO SELボタン、ADJUST◀/▶ボタンでも操作できます。リモコンをRCVR/TAPEモードにしてから操作してください。

# 映画・音楽を鑑賞する（基本編）

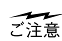
## マルチチャンネル接続した機器を再生する

DVDプレーヤーとマルチチャンネル接続をしている場合、DVDオーディオやスーパーオーディオCDなどの再生をお楽しみいただけます。20ページの通り正しく接続されていることを確認してください。

### マルチチャンネル再生をする



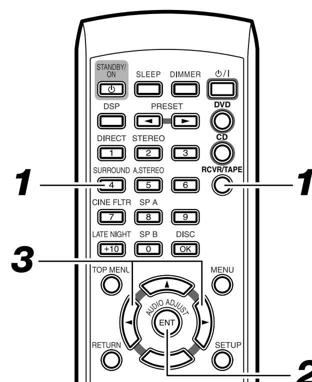

| | |
|---|---|
| **1** DVD | 入力切換ボタンを押して、「DVD」を選ぶ |
| **2** AUDIO SEL | AUDIO SEL（オーディオ セレクト）ボタンを（くり返し）押して、「Multich（マルチチャンネル）」を選ぶ<br>DVD :Multich |
| **3** | DVDプレーヤーを再生する |
| **4** VOLUME | VOLUME（ボリューム）▲/▼ボタンで音量を調整する<br>音量は基本的にMin・1・2・・・78・79・Maxまでの範囲で調整できます。<br>！ヒント<br>本体の入力切換ボタン、AUDIO SELECTOR（オーディオ セレクター）ボタン、MASTER VOLUME（マスター ボリューム）つまみでも操作できます。 |




「Multich」を選んでいるときは、リスニングモードを選ぶことはできません。また、リスニングモードを使用中に「Multich」にすると、リスニングモードは解除されます。

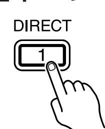
### マルチチャンネルの音質を調整する

トーンコントロール機能で左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。




| | |
|---|---|
| **1** RCVR/TAPE ↓ SURROUND | RCVR/TAPE（レシーバー/テープ）ボタンを押してから、SURROUND（サラウンド）ボタンを押す<br>「Tone On（トーン オン）」と表示され、トーンコントロール機能が働くようになります。<br>DVD Tone On |
| **2** | AUDIO ADJUST（オーディオ アジャスト）ボタンを（くり返し）押して、「Bass（バス）（低音）」または「Treble（トレブル）（高音）」を選ぶ |
| **3** | ADJUST（アジャスト）◀/▶ボタンを押して、レベルを調整する<br>−12dB〜＋12dBの範囲内で2dBずつで調整できます。<br>！ヒント<br>本体のSURROUND（サラウンド）ボタン、AUDIO ADJUST（オーディオ アジャスト）ボタン、ADJUST（アジャスト）◀/▶ボタンでも操作できます。 |

#### ■ トーンコントロール機能を解除するには



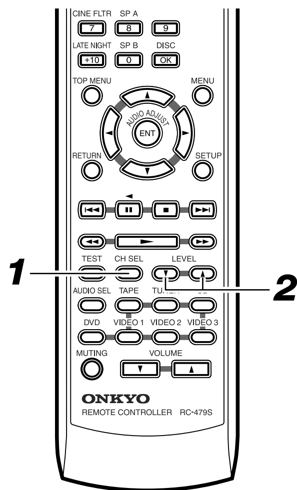

**DIRECT（ダイレクト）ボタンを押す**

「Tone Off」と表示され、トーンコントロール機能が解除されます。

● 本体のDIRECTボタンでも操作できます。

## マルチチャンネル再生時のスピーカー音量を調整する

マルチチャンネル音声を再生中、各スピーカーのレベルをお好みに調整することができます。




**1**

CH SEL

### CH SEL（チャンネルセレクト）ボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

CH SELボタンを押すたびに、次の順でスピーカーが切り換わります。

左フロントスピーカー → センタースピーカー
↑　↓
サブウーファー　右フロントスピーカー
↑　↓
左サラウンドスピーカー ← 右サラウンドスピーカー

ご注意

接続していないスピーカーは、調整できません。

**2**

LEVEL

### LEVEL（レベル）▲ / ▼ボタンを押して、音量レベルを調整する

－12ｄB～+12ｄBの範囲で調整できます。

- サブウーファーは－30ｄB～+12ｄBの範囲で調整できます。

ご注意

マルチチャンネル音声の各スピーカーレベルは、46ページのテストトーンで設定するスピーカーレベルとは異なります。マルチチャンネル再生以外での再生時には反映されません。

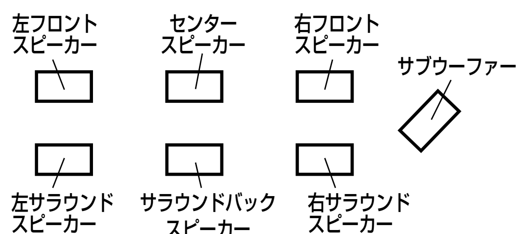
# 映画・音楽を鑑賞する（応用編）

## リスニングモードを使う

### リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わって頂けます。本機には以下のリスニングモードがあります。最適なサラウンド再生をお楽しみいただくために、スピーカーの設定を行ってください。（☞45ページ）

次のイラストは、そのリスニングモード時に出力されるスピーカーを表します。




**Stereo**（ステレオ）

左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

**Direct**（ダイレクト）

左右フロントスピーカーからのみ出力されます。もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。

**Dolby Pro Logic II**（ドルビー プロ ロジック）

映画に最適なMovie（ムービー）モードと音楽再生に最適なMusic（ミュージック）モードの2つのモードが選択できます。

Movieモードでは、従来モノラルで帯域の狭かったサラウンドチャンネルがステレオ再生になり、それぞれ独立した音を出すため、より移動感のある再生が楽しめます。DOLBY SURROUND マークのついたVHSやDVDビデオ、または一部のテレビ番組再生時に楽しむことができます。また、Musicモードでは、2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。CDなどのステレオ音楽や、ライブを記録したDVDにも適しています。

**Dolby Digital**（ドルビー デジタル）

劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。

DOLBY DIGITAL マークのついたDVD、LD、CDなどの再生時に楽しむことができます。

**Dolby Digital EX**（ドルビー デジタル）

5.1チャンネルに背面のサラウンドバックチャンネルを増やし、6.1チャンネルにすることで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の5.1チャンネル環境で再生することも可能です。

5.1チャンネルで記録されたDOLBY マークのついたCD,DVD,LDの再生時に楽しむことができます。

**DTS**

限りなく原音に忠実なサラウンドを再現するデジタルサラウンド方式です。

完全に分離させた5.1チャンネルで膨大となる音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。極めて高音質の音声を提供します。再生するにはDTS出力が可能なDVDプレーヤーが必要です。

dts マークのついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

**DTS-ES Discrete 6.1**（ディスクリート）

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンドです。DTS6.1チャンネル収録ソフトに対応しています。

追加されたサラウンドバックチャンネルを含めて6.1チャンネルすべてが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。dts ES のついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

**DTS-ES Matrix 6.1**（マトリックス）

DTSにサラウンドバックを追加した、6.1チャンネルサラウンド。DTS5.1チャンネル収録ソフトを6.1チャンネル再生します。

DTS5.1チャンネル収録ソフトにはサラウンドバックチャンネルの情報も組み込まれているため、それぞれのチャンネルを6.1チャンネルに復元して再生します。dts マークまたは dts ES のついたCD、DVD、LDなどを再生時に楽しむことができます。

**DTS Neo:6**（ネオ）

2チャンネルで収録されたソースを6.1チャンネルで再生するモードです。6チャンネルすべてに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。

映画に最適なCinema（シネマ）モードと音楽再生に最適なMusicモードの2つのモードがあります。

Cinemaモードでは、6.1チャンネルのソースとしてリアルな移動感にあふれたサラウンドが再現されます。

音声がステレオのVHSやDVDビデオ、テレビ番組に使用します。

Musicモードでは、サラウンドチャンネルを使用することで通常のステレオ出力では得られない自然な音場を生み出します。

2チャンネルの音楽に対しても自然な音場感をサラウンドチャンネルより再生します。

Musicモードは音声がステレオのCDなどに適しています。

**AAC**

MPEG-2（エムペグ） AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、最大5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。

BSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。

**AAC Dolby EX**（ドルビー）

MPEG-2（エムペグ） AAC方式で圧縮されたデジタルデータを6.1チャンネルで再生します。

## オンキヨー独自のサラウンドモード（DSP）

アナログ信号やCDなどのPCM信号を再生しているときに楽しむことができます。

オーケストラ
### Orchestra

クラシックやオペラに適したモードです。
センターチャンネルをカットするとともに、音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。
大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

アンプラグド
### Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージをつくります。

スタジオ　ミックス
### Studio-Mix

ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドは、あなたをあたかもクラブハウスにいるような気分にするでしょう。

ロジック
### TV Logic

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。
局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

オールチャンネル　ステレオ
### All Ch Stereo

BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。すべてのチャンネルでステレオ再生しますので迫力ある音場をお楽しみ頂けます。

**入力ソースと対応するリスニングモード**

| 入力信号の種類 | アナログ/PCM | PCM fs=96kHz | DTS | Dolby Digital | | | AAC | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | ∗/2 | 2/0.2/1 | それ以外 | ∗/2 | 2/0 | 1/0 | 1+1 |
| 主なソース / リスニングモード | カセット/CD ビデオ/ラジオ テレビ、LDなど | DVD 96k/24bitなど | DVDビデオ LD、CDなど | DVDビデオなど | | | BSデジタル放送など | | | |
| Direct | ● | ● | | | | | | | | |
| Stereo | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | |
| Dolby Pro Logic II Movie | ● | | | | ● | | | ● | | |
| Dolby Pro Logic II Music | ● | | | | ● | | | ● | | |
| Dolby Digital | | | | ● | | ● | | | | |
| Dolby Digital EX | | | | ● | | | | | | |
| DTS Neo:6 Cinema | ● | | | | | | | | | |
| DTS Neo:6 Music | ● | | | | | | | | | |
| DTS | | | ● | | | | | | | |
| DTS-ES Discreate | | | ● | | | | | | | |
| DTS-ES Matrix | | | ● | | | | | | | |
| AAC | | | | | | | ● | | ● | |
| AAC Dolby EX | | | | | | | ● | | | |
| AAC Main | | | | | | | | | | ● |
| AAC Sub | | | | | | | | | | ● |
| AAC Main+Sub | | | | | | | | | | ● |
| Orchestra | ● | | | | | | | | | |
| Unplugged | ● | | | | | | | | | |
| Studio-Mix | ● | | | | | | | | | |
| TV Logic | ● | | | | | | | | | |
| All Ch Stereo | ● | | | | | | | | | |

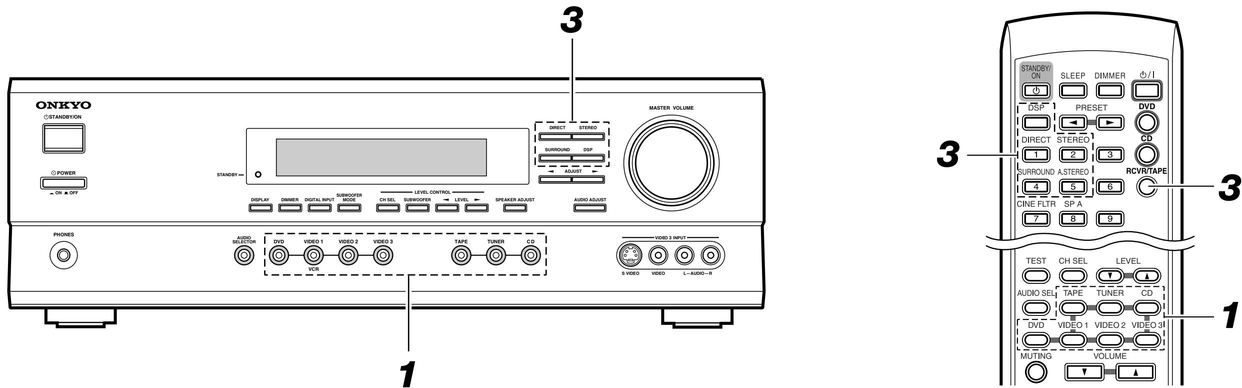



接続しているスピーカーの数や入力信号のフォーマットによっては上記のリスニングモードを選択できないことがあります。

# 映画・音楽を鑑賞する（応用編）

## リスニングモードを選ぶ

「Multich」を選んでいるときは、リスニングモードを選ぶことはできません。また、リスニングモードを使用中に「Multich」にするとリスニングモードは解除されます。




### 1 本体またはリモコンの入力切換ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

DVD　VIDEO 1　VIDEO 2　VIDEO 3
VCR
TAPE　TUNER　CD

本体

または

TAPE　TUNER　CD
DVD　VIDEO 1　VIDEO 2　VIDEO 3

リモコン

### 2 選んだ機器を再生する

### 3 リスニングモードを選ぶ

DIRECT　STEREO
SURROUND　DSP

本体

または

DSP
RCVR/TAPE
DIRECT　STEREO
1　2
SURROUND　A.STEREO
4　5

リモコン

LISTENING MODEボタンを押して、リスニングモードを選びます。
リモコンの場合は、RCVR/TAPEボタンを押してからリスニングモードを選びます。

ご注意　入力信号によって選択できるリスニングモードが異なります。（☞39ページ「入力ソースに対応するリスニングモード」をご覧ください。）

**DIRECT**：リスニングモードを「Direct」に切り換えます。

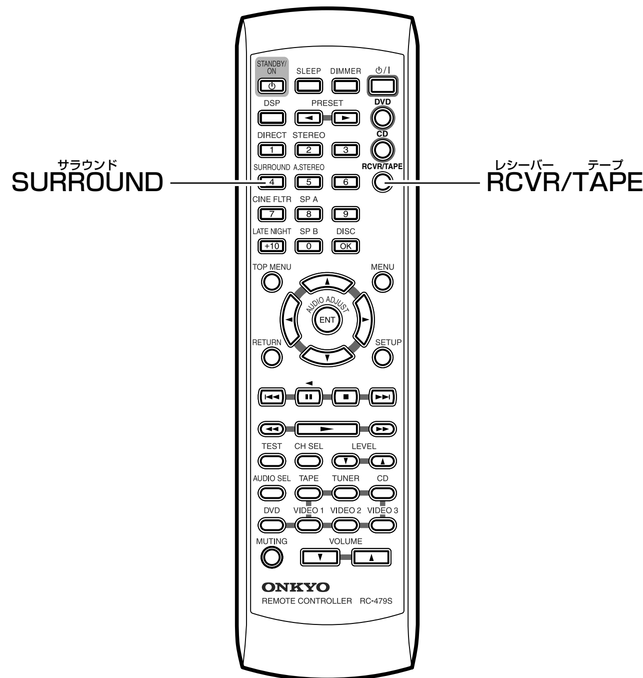
**STEREO**：リスニングモードを「Stereo」に切り換えます。
AACの音声多重信号が入力されているときは、主音声と副音声を切り換えます。

**SURROUND**：2チャンネル信号が入力されているときは、リスニングモードを「Dolby Pro Logic II Movie/Music」、「DTS Neo:6 Cinema/Music」に切り換えます。
：デジタル信号が入力されているときは、41ページの設定が行えます。
：マルチチャンネル信号が入力されているときは、「Tone On」と表示され、低音、高音効果が得られます。（☞36ページ）

**DSP**：入力している信号に対応できるリスニングモードが選べます。
DSPボタンを押すたびに対応できるリスニングモードに切り換わります。
本体のDSPボタンではオンキヨー独自のDSPモードの中から選びます。

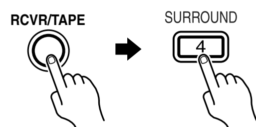
**A.STEREO（リモコンのみ）**：リスニングモードを「All Ch St」に切り換えます。

再生中でリスニングモードがドルビーデジタル、DTS、AACのときはこんなこともできます。



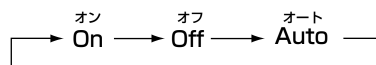

## Dolby Digital/Dolby Digital EX

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、Dolby Digtalソースを6.1チャンネル再生するか5.1チャンネル再生するかを設定しておくことができます。ただし、再生する信号にサラウンドチャンネルの情報がない、またはモノラルのときは以下の設定をしてもDolby Digital（5.1チャンネル）再生になります。




### RCVR/TAPEボタンを押してから、SURROUNDボタンを押す

ボタンを押すごとにDolby Digital EXの設定が下記の順で切り換わります。



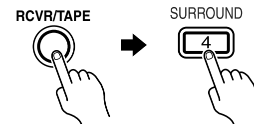

On：ドルビーデジタルの識別信号があるときはDolby Digital EXに切り換わり、6.1チャンネル再生をします。ドルビーデジタルの識別信号がないときも、強制的にDolby Digital EXになり、6.1チャンネル再生をします。

Off：ドルビーデジタルの識別信号があるディスクでもDolby Digital（5.1チャンネル）再生を行います。

Auto：ドルビーデジタルの6.1チャンネル識別信号があるときは、Dolby Digital EXに切り換わり、6.1チャンネル再生をします。ドルビーデジタルの識別信号がないときは、Dolby Digital（5.1チャンネル）再生をします。

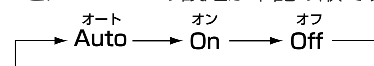
## DTS/DTS-ES Discrete/DTS-ES Matrix

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、DTSソースを6.1チャンネル再生するか、5.1チャンネル再生するかを設定しておくことができます。




### RCVR/TAPEボタンを押してから、SURROUNDボタンを押す

ボタンを押すごとにDTS-ESの設定が下記の順で切り換わります。



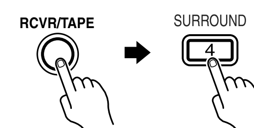

Auto：dts ES があるディスクを再生するときは、DTS-ES Discrete 6.1またはDTS-ES Matrix 6.1に切り換わり、6.1チャンネル再生をします。dts ES がない場合はDTS（5.1チャンネル）再生になります。

On：dts ES があるディスクを再生するときは、DTS-ES Discrete 6.1またはDTS-ES Matrix 6.1に切り換わり、6.1チャンネル再生をします。
dts ES がない場合も、強制的にDTS-ES Matrix 6.1になり、6.1チャンネル再生をします。

Off：dts ES があるディスクでもDTS（5.1チャンネル）再生を行います。

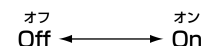
## AAC/AAC Dolby EX

サラウンドバックスピーカーを使用しているとき、AACソースを6.1チャンネル再生するか、5.1チャンネル再生するかを設定しておくことができます。




### RCVR/TAPEボタンを押してから、SURROUNDボタンを押す

ボタンを押すごとにAACの設定が下記の順で切り換わります。

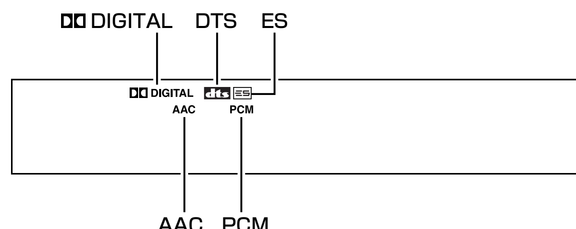



Off：AACソースを5.1チャンネル再生します。
On：AACソースを6.1チャンネル再生します。

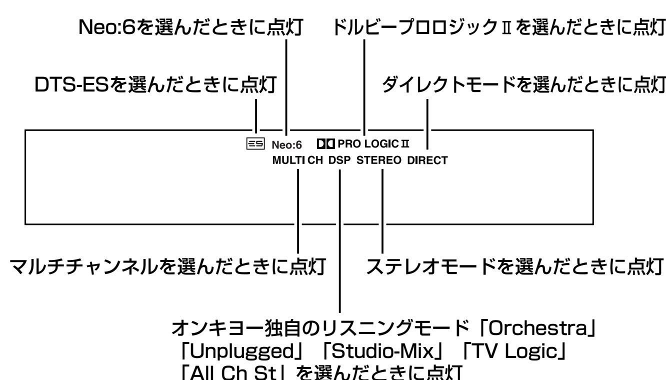
# 映画・音楽を鑑賞する（応用編）

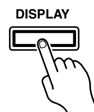
## 表示を確認する

デジタル音声を認識すると、その音声方式によって以下のいずれかのインジケーターが点灯します。




また、リスニングモードを選ぶと以下のいずれかのインジケーターが点灯します。

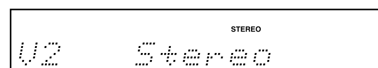



本体のDISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押すたびに、表示内容が次のように切り換わります。

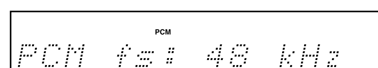
● 入力信号がアナログのとき

入力ソースと音量 ←→ リスニングモード



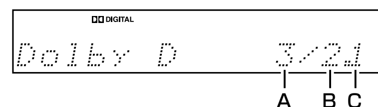

● 入力信号がPCMのとき

→ 入力ソースと音量 → サンプリング周波数*1 → 入力ソースとリスニングモード → サンプリング周波数*1 →




● 入力信号がPCM以外のデジタル信号のとき

→ 入力ソースと音量 → 入力信号とフォーマット*1,2 → 入力ソースとリスニングモード → 入力信号とフォーマット*1,2 →




*1入力信号にプログラム情報がないときは、表示されません。サンプリング周波数やフォーマット表示状態で、約3秒経過すると、元の表示に戻ります。

*2フォーマット表示の意味

A: 入力信号に含まれているフロントチャンネルの数
- 3: 左フロント、センター、右フロントスピーカーの3チャンネル
- 2: 左フロント、右フロントスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

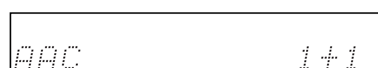
B: 入力信号に含まれているサラウンドチャンネルの数
- 3: 左サラウンド、右サラウンド、サラウンドバックスピーカーの3チャンネル
- 2: 左サラウンド、右サラウンドスピーカーの2チャンネル
- 1: モノラル（1チャンネル）

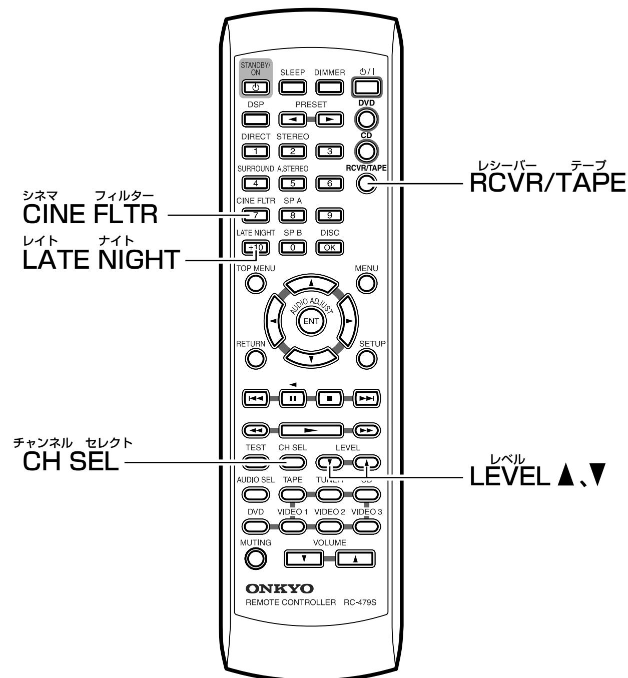
C: 入力信号に含まれているLFE（低域効果音）の有無
- 1: あり
- : なし

たとえば、「3/2.1」と表示された場合は、フロント3チャンネルとサラウンド2チャンネル、それにLFEがそれぞれ独立して記録されたソースで、5.1チャンネルソースであることを表しています。

● 入力信号がAACの音声多重放送(2ヶ国語放送など)のとき

→ 入力ソースと音量 → 入力信号と音声の数 → 入力ソースと選択音声 → 入力信号と音声の数 →



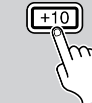



## レイトナイト機能を使う（ドルビーデジタルのみ）

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

**1**




### リモコンのRCVR/TAPE（レシーバー テープ）ボタンを押してからLATE NIGHT（レイト ナイト）ボタンを（くり返し）押す

LateNight： High

Off（オフ）：レイトナイト機能をオフにします。
Low（ロー）：音量幅を小さくします。
Hight（ハイ）：音量幅をさらに小さくします。
しばらくすると元の表示に戻ります。

ご注意
- レイトナイト機能は、ドルビーデジタルソフトにのみ効果があります。
- レイトナイト効果は、ドルビーデジタルソフトによって効果が少なかったり、効果がない場合もあります。

## スピーカーの音量を一時的に調整する

再生中、一時的に各スピーカーのレベルをお好みに調整することができます。本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

**1**

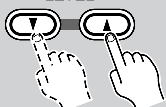



### リモコンのCH SEL（チャンネルセレクト）ボタンを押して、調整するスピーカーを選ぶ

ご注意

接続していないスピーカーは調整できません。

**2**




### LEVEL（レベル）▲/▼ボタンを押して、音量を調整する

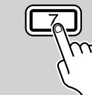
−12dBから+12dBの範囲で調整できます。

## シネマフィルター機能を使う

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。シネマフィルターの設定は、リスニングモードがドルビーデジタル、ドルビーデジタルEX、ドルビー プロ ロジックII ムービー、DTS、DTS-ES、DTS Neo:6 シネマ、AAC、AAC Dolby EXの場合に働きます。

**1**




### リモコンのRCVR/TAPE（レシーバー テープ）ボタンを押してから、CINE FLTR（シネマ フィルター）ボタンを（くり返し）押す

# 映画・音楽を鑑賞する（応用編）

## 録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意
- サラウンド効果は録音されません。
- 著作権保護されたDVDなどは録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- DIGITAL INPUT（COAXIAL）または（OPTICAL）の入力端子から入力されたデジタル信号は、DIGITAL OUTPUT（OPTICAL）の出力端子からのみ出力されます。
- デジタル信号の録音・録画については制約があります。デジタル録音するときは、録音機器の取扱説明書もご覧ください。
- 録音·録画中にソースを切り換えると、新しく選択されたソースが録音·録画されます。
- デジタル音声入力はデジタル音声出力のみ、アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- DTS信号をノイズとして録音・録画することになりますので、DTS対応のCDやLDをアナログ録音しないでください。

### 再生しながら録音·録画する

現在再生中の音楽や映画を録音·録画します。

**1** 入力切換ボタンを押して録音・録画する機器（再生側）を選ぶ

DVD VIDEO 1 VIDEO 2 VIDEO 3 VCR TAPE TUNER CD

**2** 録音・録画する機器（録音側）の準備をする
- 録音・録画する機器を録音待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録音機器で行ってください。
- 録音のしかたについては、録音・録画機器の取扱説明書をご覧ください。

**3** 録音・録画を始める

手順*1*で選んだ再生機器を演奏します。

### 異なるソースの音楽と映像を録音·録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD端子に接続したCDプレーヤーの音声とVIDEO 3 INPUT端子に接続したビデオカメラの映像をVIDEO 1 OUTPUT端子に接続したビデオデッキで録音·録画する例です。

**1** 録音する機器(再生側)の準備をする

例：VIDEO 3 INPUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

**2** VIDEO 1 OUTPUT端子に接続したビデオデッキにテープをセットする

**3** 入力切換ボタンの「VIDEO 3」を押す

VIDEO 3

**4** 入力切換ボタンの「CD」を押す

CD

音声出力はCDに変わりますが、映像出力は手順*3*で選んだVIDEO 3のまま変わりません。
VIDEO 1 OUTPUT端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、VIDEO 3 INPUT端子に接続したビデオカメラとCDプレーヤーの再生を始めます。
映像はビデオカメラから録画し、音声はCDプレーヤーから録音されます。

ご注意

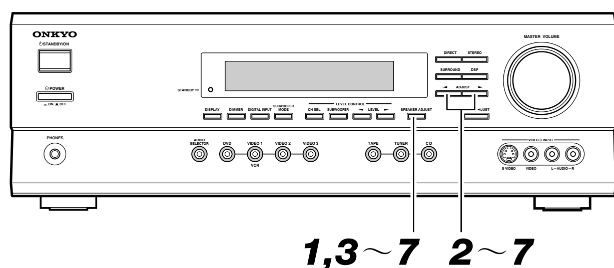
録音できるのはTUNER、TAPE、CD端子に接続した機器の音声のみです。

# 設定をする（応用編）

## スピーカーの設定をする（応用編）

### 視聴位置からスピーカーまでの距離を設定する（ディスタンスセットアップ）

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く早さを一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。この設定は本機をスタンバイ状態にしても記憶しています。



1,3～7　2～7

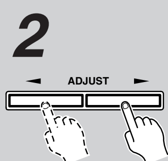
**1**




**本体のSPEAKER（スピーカー） ADJUST（アジャスト）ボタンを3回押して、「Distance（ディスタンス） Setup（セットアップ）」を表示させる**

Front : 3.6m

**2**



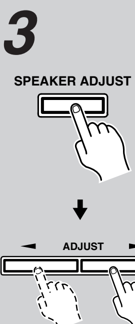

**ADJUST（アジャスト）◀/▶ボタンで距離を設定する**

DISPLAY（ディスプレイ）ボタンで距離の単位を変えることもできます。

feet（フィート）：距離をフィートで設定する。1ft単位で30ftまで設定できます。

meters（メートル）：距離をメートルで設定する。0.3m単位で9mまで設定できます。

**3**



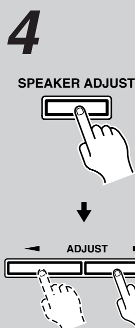

**SPEAKER ADJUSTボタンを押して、「Center（センター）」を選び、ADJUST◀/▶ボタンで距離を設定する**

センタースピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

！ヒント

フロントスピーカーより1.5m遠い、または近い範囲で選択できます。

**4**



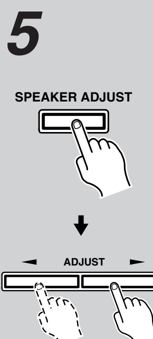

**SPEAKER ADJUSTボタンを押して、「SurrRight（サラウンド ライト）」を選び、ADJUST◀/▶ボタンで距離を設定する**

右サラウンドスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

！ヒント

フロントスピーカーより1.5m遠い、または4.5m近い範囲で選択できます。

**5**



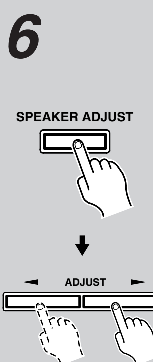

**SPEAKER ADJUSTボタンを押して、「Surr Back（サラウンド バック）」を選び、ADJUST◀/▶ボタンで距離を設定する**

サラウンドスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

！ヒント

フロントスピーカーより1.5m遠い、または4.5m近い範囲で選択できます。

**6**



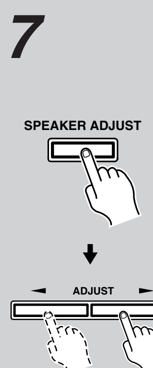

**SPEAKER ADJUSTボタンを押して、「Surr Left（サラウンド レフト）」を選び、ADJUST◀/▶ボタンで距離を設定する**

左サラウンドスピーカーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

！ヒント

フロントスピーカーより1.5m遠い、または4.5m近い範囲で選択できます。

**7**




**SPEAKER ADJUSTボタンを押して、「Subwoofer（サブウーファー）」を選び、ADJUST◀/▶ボタンで距離を設定する**

サブウーファーから視聴位置までの実際に近い数値に設定します。

！ヒント

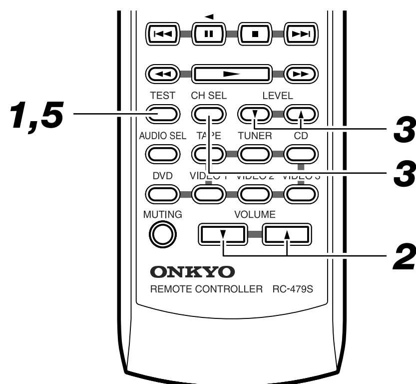
フロントスピーカーより1.5m遠い、または近い範囲で選択できます。

# 設定をする（応用編）

## スピーカーの音量レベルを調整する

各スピーカーからのテストトーン音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。
スタンバイ状態にしても記憶しています。

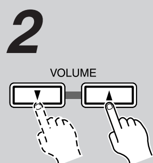
- ミューティング中やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。




**1** 

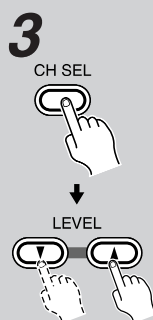

### リモコンの TEST（テスト）ボタンを押す

左フロントスピーカーから「ザー」というテストトーンが出力されます。

**2** 


### VOLUME（ボリューム）▲/▼ボタンで音量を調整する

テスト音は小さめなので良く聞こえる音量にVOLUME▲/▼ボタンで調整してください。

**3** 


### CH SEL（チャンネルセレクト）ボタンでスピーカーを切り換え、LEVEL（レベル）▲/▼ボタンでテスト音を調整する

すべてのスピーカーのテスト音が同じに聞こえるように調整します。

- －12dB～+12ｄBの範囲内で調整できます。

**4**

### 手順*3* をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する

テスト音は次の順で出力されます。

左フロントスピーカー → センタースピーカー → 右フロントスピーカー → 右サラウンドスピーカー → サラウンドバックスピーカー → 左サラウンドスピーカー → サブウーファー → 左フロントスピーカー

ご注意

手順*2*でいつも聞く音量よりも大きくした場合は、VOLUME▼ボタンで音量を戻してください。

**5** 

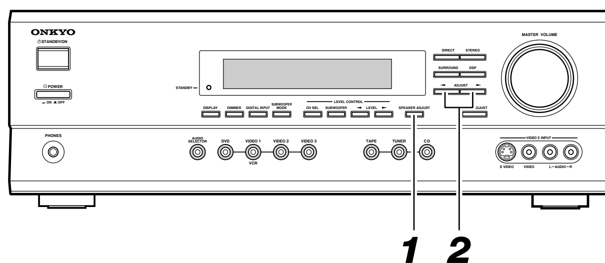

### TESTボタンを押す

設定が終わります。

- 設定したスピーカー構成にないスピーカーからは、テストトーンは出力されません。
- サブウーファーモードを「Off（オフ）」にしていると、サブウーファーのテストトーンは出力されません。
- CH SELボタンを押さなくても、2秒経過するとテストトーンは次のスピーカーに移ります。

## 低音域の管理設定をする（クロスオーバー）

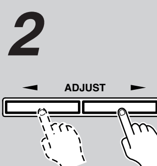
それぞれのスピーカーの低音域を設定します。




**1** 


### SPEAKER（スピーカー） ADJUST（アジャスト）ボタンを2回押して、「CrossOver（クロス オーバー）」を表示させる

`Crossover:100Hz`

**2** 


### ADJUST（アジャスト）◀/▶ボタンでクロスオーバー周波数を選ぶ

クロスオーバー設定値を環境に合った数値に設定します。

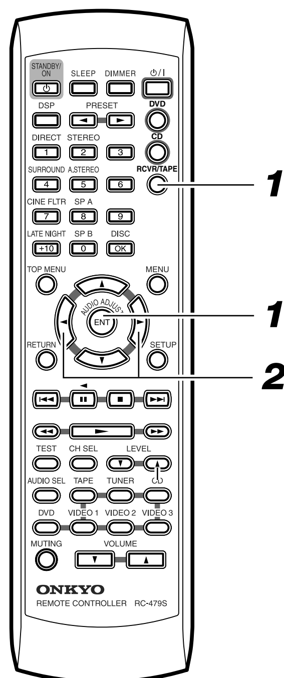
目安としてサブウーファーがある場合は、フロントスピーカーのユニット部の直径を目安にします。

| ユニット部の直径 | クロスオーバー設定値 |
|---|---|
| 20 cm 以上 | 60 |
| 16 ～ 20 cm | 80 |
| 13 ～ 16 cm | 100 |
| 9 ～ 13 cm | 120 |
| 9 cm 以下 | 150 |

## 音響効果に関する設定をする

### 低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「ダイレクト」、マルチチャンネルで「Tone Off」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。



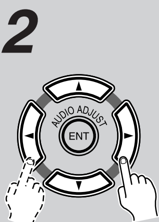

**1**




**RCVR/TAPE ボタンを押してから、AUDIO ADJUSTボタンを押して「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ**

ソースやリスニングモードによって調整できる項目が異なります。

**2**



**ADJUST◀/▶ ボタンを押して、調整する**

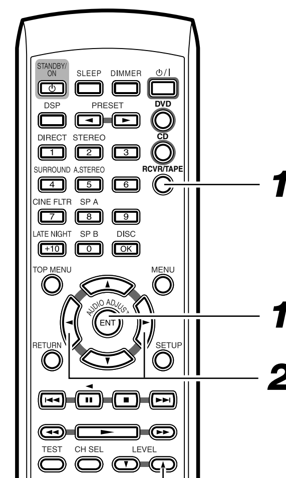
お買い上げ時は「0」ですが、－12ｄB～＋12ｄBの範囲内で2dBずつ調整できます。

！ヒント

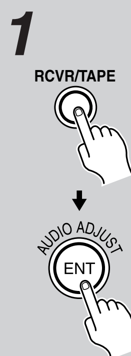
本体のAUDIO ADJUSTボタン、ADJUST◀/▶ボタンでも操作できます。

### DTS Neo:6 Musicの調整をする（センターイメージ）

「DTS Neo:6 Music」は、2チャンネルで収録されたソースを6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。
リスニングモードがDTS Neo:6 Musicのとき､どの程度音声を差し引いてセンターチャンネルのイメージを作るかを調整します。




**1**




**RCVR/TAPEボタンを押してから、AUDIO ADJUSTボタンを3回押して「Center Imarge」を選ぶ**

**2**



**ADJUST◀/▶ ボタンを押して調整する**

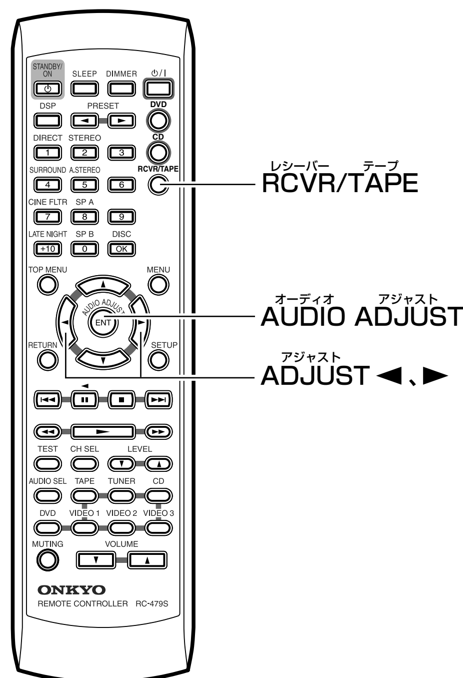
お買い上げ時は「3」ですが、0～5の範囲で選択できます。

- 「0」は左右のチャンネルから半分（－6ｄB）差し引いてセンターイメージを作るため、より中央に寄った感じになります。視聴位置が中央からかなりずれている場合に便利です。
- 「5」は左右のチャンネルから音声が差し引かれないため元のステレオ音声のバランスのまま出力されます。

！ヒント

本体のAUDIO ADJUSTボタン、ADJUST◀/▶ボタンでも操作できます。

## Dolby Pro Logic II Musicの調整をする




### ■横方向の広がり

リスニングモードが「Doby Pro Logic II Music」のとき、前方の音場を横方向まで広げることができます。

**1** RCVR/TAPEボタンを押してから、 AUDIO ADJUSTボタンを3回押して「Panorama」を選ぶ

Panorama :Off

**2** ADJUST◄/► ボタンを押して、「On」 または「Off」を選ぶ

On ：プロロジックIIパノラマ効果をオンにします。
Off ：プロロジックIIパノラマ効果をオフにします。

お買い上げ時は「Off」に設定されています。

### ■音場の位置

リスニングモードが「Doby Pro Logic II Music」のとき、音場を前方または後方へ移動させることができます。

**1** AUDIO ADJUSTボタンを4回押して「Dimension」を選ぶ

Dimension: 3

**2** ADJUST◄/► ボタンを押して調整する

- 「3」を中心に、2、1、0にすると前方へ、4、5、6にすると後方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は音場を前方に調整するとバランスが良くなります。
  逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は音場を後方に調整するとバランスがよくなります。
- お買い上げ時は「3」に設定してあります。

### ■センター音の広がり

リスニングモードが「Doby Pro Logic II Music」のとき、センタースピーカーの音の幅を調整することができます。
Doby Pro Logic II では、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。
（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）
この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。

**1** AUDIO ADJUSTボタンを5回押して「Center Width」を選ぶ

Center Width: 3

**2** ADJUST◄/► ボタンを押して調整する

お買い上げ時の設定は「3」ですが、0〜7の範囲で選択することができます。

# 困ったときは

まず下の表で点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

## 電源

### 電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

## 音声

### 音声が出力されない/小さい

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの+/−は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部に触れているか確認してください。（17）
- 入力が正しく選択できているか確認してください。（33）
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin･1･2･･･78･79･Maxまで調整できます。（33）
- 表示部に“MUTING”と表示されている場合はリモコンのMUTINGボタンを押して解除してください。（34）
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。（34）
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- 音声信号の設定はされていますか。AUDIO SELECTORボタンで音声を選択してください。（35）
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、フォノイコライザーを中継してください。（26）
- MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。
- ケーブルが折れ曲がったり損傷していないか確認してください。
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。（38, 39）
- スピーカーの距離、音量設定を行ってください。（45, 46）
- サブウーファーモードを設定してください。（31）

### フロントスピーカーからしか音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」になっているとフロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ません。（38）
- リスニングモードが「Direct」になっているとフロントスピーカーからしか音が出ません。（38）
- 接続しているスピーカーの数を正しく設定してください。（31）

### センタースピーカーからしか音が出ない

- TVやAM放送などモノラル音源を再生するときにサラウンドモードがPL II MOVIEまたはPL II MUSICにするとセンタースピーカーに音が集中します。
- 接続しているスピーカーの数を正しく設定してください。（31）

### サラウンドスピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」のときはサラウンドスピーカーから音が出ません。（38）
- 再生するソースによって音が出にくい場合があります。
- 接続しているスピーカーの数を正しく設定してください。（31）

### センタースピーカーから音が出ない

- リスニングモードが「Stereo」のときはセンタースピーカーから音が出ません。（38）
- リスニングモードが「Orchestra」のときはセンタースピーカーから音が出ません。（39）
- 接続しているスピーカーの数を正しく設定してください。（31）

### サラウンドバックスピーカーから音が出ない

- リスニングモードによってはサラウンドバックスピーカーから音が出ません。（38, 39）
- EXモードをONに設定してください。（41）
- 再生するソースによっては音が出にくい場合があります。
- 接続しているスピーカーの数を正しく設定してください。（31）

### サブウーファーから音が出ない

- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合は、サブウーファーから音が出ません。
- 接続しているスピーカーの数を正しく設定してください。（31）

### 希望する信号フォーマットで音声出力ができない

- 音声信号の設定の確認を行ってください。再生する信号によって「Auto」、「Multich」、「Analog」、「DTS」、「PCM」を選択します。（35）
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。
- 入力される信号によっては選択できないリスニングモードがあります。（39）

### 音量調整が79以下で終わる

- 各スピーカーの音量調整を行うと、音量最大値が変わることがあります。（46）

### ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

# 困ったときは

**レイトナイト機能が働かない**

- 再生ソースがドルビーデジタルか確認してください。（43）

**マルチチャンネル音声が出力されない**

- マルチチャンネル対応のDVDプレーヤーを使用しているか確認してください。
- 音声信号の種類を「Multich」にしてください。（36）
- マルチチャンネルは入力をDVDにしたときにしか選ぶことができません。

**DTS信号について**

- DTS信号を再生しているときは、本機のDTSインジケーターが点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了してもDTSインジケーターが点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTSデーターに何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTSデーターとみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側でポーズやスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

## 映像

**映像が出ない**

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の映像出力端子と本機の接続に間違いがないか確認してください。
- 映像機器と本機をD端子接続している場合は、本機とテレビもD端子またはコンポーネント接続をしてください。（18）
- 映像機器と本機をCOMPONENT端子接続している場合は、本機とテレビもコンポーネントまたはD端子接続をしてください。（18）
- TVなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- D端子とCOMPONENT端子を同じ系統で同時に接続しないでください。（19）

## リモコン

**リモコン操作ができない**

- 電池の極性（+/−）が正しく入っているか確認してください。（8）
- 電池を2本とも新しいものと交換してみてください。（8）
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。
- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（12～14）

**他機器の操作ができない**

- オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RIケーブルだけでは連動しません）
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。（12～14）
- 本機に付属のリモコンでMDレコーダーは操作できません。
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（例TAPE端子にMDレコーダーを接続した場合）（32）

## 録音

**録音ができない**

- 録音機器側の録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。

## その他

**ヘッドホンを接続すると音が変わる/表示が消える**

- ヘッドホンを接続すると自動的にSTEREO出力になり、ステレオ表示になります。（34）

**スピーカーの距離設定が希望通りにならない**

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

**メモリー保持について**
本機には、メモリー保持用の予備電源装置が内蔵されています。これは、お客様が行ったスピーカーの設定や音響効果に関する設定などを停電時などに保護するためのものです。本機の主電源を切った状態でメモリーが保持できるのは約2週間です。

**本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。**

**製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。**

**すべての内容をお買い上げ時の設定内容に戻すには**
**電源を入れた状態でVIDEO 1ボタンを押したままSTANDBY/ONボタンを押してください。**
**表示部に「Clear」が表示され、スタンバイ状態になります。**

# 用語集

## 音声フォーマット

### サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルやDSPの音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

### ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから5.1チャンネルまでに対応しています。
プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Videoの標準音声、米国DTVの標準音声として採用されています。

### ドルビーデジタルサラウンドEX（Dolby Digital Surround EX）
ドルビー社とルーカスフィルムTHXで共同開発された新しい音響フォーマット。
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の3つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の5.1チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です

### ドルビープロロジック（Dolby Pro Logic）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。
2チャンネル（Lt/Rt）にマトリックスエンコードされた4チャンネル（L/C/R/S）信号を方向性強調を用いてもとの4チャンネル信号に復元します。センターチャンネルスピーカーを使用することで、正面で視聴していなくても画面からセリフが聞こえるようになります。

### ドルビープロロジックII（Dolby Pro LogicII）
プロロジックを更に改良したマトリックスデコード技術。
これまでのプロロジックとの大きな差としては、サラウンドチャンネルがステレオであること（プロロジックはモノラル)、その再生帯域がフルバンド（プロロジックは7kHzの帯域制限）であることです。
したがって、あらゆるステレオ音源を5.1chであるかのような立体音場で楽しむことができます。
映画の再生に適した「ムービー」モード、音楽再生に適した「ミュージック」モードがあります。

### DTSデジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国のDTS社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常4:1程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期してCD-ROMに記録された音声が再生されます。

### DTS-ES エクステンディッドサラウンド (DTS-ES Extended Surround)
従来のDTS5.1chシステムにセンターバックサラウンド(CS)チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ESには「DTS-ESディスクリート6.1ch」と「DTS-ESマトリックス6.1ch」の2種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来のDTS5.1ch対応機器での再生も可能です。

### DTS-ES　ディスクリート6.1 (DTS-ES Discrete 6.1)
5.1チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応したDTSデジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した6.1チャンネル音声を再生するDTSシステム。

### DTS-ES　マトリックス6.1 (DTS-ES Matrix 6.1)
映画館におけるDTS-ESと同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して6.1チャンネルとする方式のDTSシステム。マトリックスデコーダーとしてNeo:6に対応した機器を使用します。

### Neo:6
DTS社によって開発された、デジタル・アナログを含む全ての2チャンネルソースを6チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「シネマ」モードと音楽に適した「ミュージック」モードが用意されています。また、「DTS-ES マトリックス 6.1のセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

### MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding)は、AT&T社、ドルビーラボラトリーズ、フラウンホーヘル・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS)、そしてソニー株式会社の4社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISOとIECの共同管轄の下に、MPEG-2規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来のMPEG音声との後方互換性がないので、従来のMPEG音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

# 用語集

## 音声

**アナログ**
カセットデッキやビデオデッキ、レコードプレーヤーの音を一般にアナログ音声と呼びます。

**デジタル**
DVDやCDの音源を一般にデジタル音声と呼びます。

**光（OPTICAL）デジタル**
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にOPTICAL端子がある場合に使用できます。
音質は同軸デジタルと同等です。

**同軸（COAXIAL）デジタル**
DVDやCDなどのデジタル信号を入出力するための信号でＲＣＡタイプのピンコードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器にCOAXIAL端子がある場合に使用できます。音質は光デジタルと同等です。

**サンプリング周波数**
アナログ信号をデジタル信号に変換する時の精度。44.1ｋHzは1秒間に44100回、96ｋHzは1秒間に96000回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

**ダイナミックレンジ**
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

**ビットストリーム**
ドルビーデジタルやDTSフォーマットのデジタルデータ。

**LFE（Low Frequency Effect）**
ドルビーデジタルやDTSの低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

**5.1chサラウンド**
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つで5ch（チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この6本のスピーカーを使って再生することを5.1chサラウンドと言います。

**6.1chサラウンド**
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー1つ、フロントスピーカー2つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー2つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー1つで6ch（6チャンネル）、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が10分の1のため、この7本のスピーカーを使って再生することを6.1chサラウンドと言います。

## 映像

**コンポジット**
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、
その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

**Ｓビデオ**
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）、同期信号などを複合した形で扱う信号。
コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続にはＳビデオコードを使用します。テレビにＳ端子がある場合使えます。

**コンポーネント**
輝度信号（Y信号）と色信号（C信号）を2つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
Ｓ信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルをご使用ください。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質はSビデオより良く、D端子と同レベルです。

**Ｄ端子**
ケーブル1本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビにD端子がある場合使えます。
D1～D4までの解像度のランクがあり、D4がもっとも高画質です。画質はSビデオより良く、コンポーネントと同レベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

# 主な仕様

## 総合

**電源・電圧：**AC100V・50/60Hz
**消費電力：**360W（電気用品安全法技術基準）
**待機時電力：**1.7W
**最大外径寸法：**435（幅）×150（高さ）×376（奥行）mm
**質量：**9.8kg

**●映像入力：**
**D4：**2（DVD IN、D4 VIDEO VIDEO 1/2/3）
**コンポーネント：**2（COMPONENT DVD IN、VIDEO 1/2/3）
**S：**4（DVD、VIDEO 1/2、VIDEO 3（前面パネル））
**コンポジット：**4（DVD、VIDEO 1/2、VIDEO 3（前面パネル））

**●映像出力：**
**D4：**1（D4 VIDEO OUT）
**コンポーネント：**1（COMPNENT VIDEO OUT）
**S：**2（VIDEO 1、MONITOR OUT）
**コンポジット：**2（VIDEO、MONITOR OUT）

**●音声入力：**
**デジタル：**3（OPTICAL2、COAXIAL1）
**アナログ：**6（CD、TAPE、VIDEO 1/2、VIDEO 3（前面パネル）、TUNER）
**マルチchアナログ：**5.1ch

**●音声出力：**
**デジタル：**1（OPTICAL）
**アナログ：**2（TAPE、VIDEO 1）
**サブウーファープリ出力：**1
**スピーカー出力：**6
**ヘッドホン出力：**1

## アンプ（音声）部

**定格出力：**
全てのチャンネル（2チャンネル駆動時)
80W 6Ω 1kHz、全高調波歪率0.1%以下
65W 8Ω 20Hz〜20kHz、全高調波歪率0.08%以下
**実用最大出力：**
115W 6Ω 1kHz（EIAJ）
**全高調波歪率：**0.08%（定格出力時）
**ダンピングファクター：**フロント、8Ω負荷時で60
**入力感度/インピーダンス：**
DIGITAL INPUT (COAXIAL)：0.5Vp-p/75Ω
DIGITAL INPUT (OPTICAL)：0.5Vp-p/75Ω
LINE (CD、VIDEO 1、2、3、TAPE、TUNER)：200mV/47kΩ
DVD (FRONT L/R、CENTER、SURR L/R)：200mV/47kΩ
DVD (SUBWOOFER)：36mV/47kΩ
**出力電圧/インピーダンス：**
REC OUT (VIDEO 1、TAPE)：200mV/470Ω
PRE OUT：1V/470Ω (SUBWOOFER)
**周波数特性：**
10Hz〜100kHz：+1dB/−3dB（ダイレクトモード)
**トーンコントロール最大変化量：**
Bass：±12dB（20Hz時）
Treble：±12dB（20kHz時）
**SN比：**
100dB IHF-A、0.5V入力、(ダイレクトモード）
**スピーカー適応インピーダンス：**6Ω〜16Ω

## 映像部

**入力感度・出力電圧/インピーダンス：**
1.0Vp-p/75Ω（COMPONENT、S VIDEO Y信号）
0.7Vp-p/75Ω（COMPONENT PB/CB、PR/CR）
0.286Vp-p/75Ω（S Video C信号）
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット）
**コンポーネント映像周波数特性：**5Hz〜50MHz

## リモコン RC-479S

**方式：**赤外線
**信号到達距離：**約5m
**使用電池：**単3型（1.5V）乾電池2個

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

# 修理について

## 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

## 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、必ず電源プラグを抜いてから修理を依頼してください。

## 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店または、当社サービスステーションにご依頼ください。詳細は保証書をご覧ください。

## 修理を依頼されるときは

「おところ」「お名前」「電話番号」「製品名 TX-SA501」「故障または異常の内容」をできるだけ詳しくお買い上げ店、または当社サービスステーションまでご連絡ください。

## 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

## 補修用性能部品の保有期間について

当社では本機の補修用性能部品を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。
性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、または当社サービスステーションにご相談ください。

修理を依頼されるときは、下記事項をお買い上げ店、または当社サービスステーションまでお知らせください。

- ▶ お 名 前
- ▶ お 電 話 番 号
- ▶ ご 住 所
- ▶ 製 品 名　TX-SA501
- ▶ で き る だ け 詳 し い 故 障 状 況

# メモ

ご購入された時にご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

購入年月日：　　　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　　（　　）

メモ：

ONKYO®

オンキヨー株式会社

本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

製品の故障や修理についてのお問い合わせ先：
お買い上げの販売店もしくは「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」に記載の最寄りのサービスステーションへお申し出ください。
●東京サービスセンター　☎ 03(3861)8121　●大阪サービスセンター　☎ 072(831)8080

ONKYO HOMEPAGE
http://www.onkyo.co.jp/

SN 29343481A



G0304-2